平成２４年度

第７回

県民アンケート調査報告書

「食の安全に関する県民意識と
新潟県の食の安全･安心行政に求めること」

平成２５年３月

新潟県

知事政策局広報広聴課

目　次

Ⅰ　調査の概要・・・

Ⅰ　調査の概要

１　調査項目

食の安全に関する県民意識と新潟県の食の安全・安心行政に求めること

２　調査目的

新潟県では、「にいがた食の安全・安心条例」（以下、「条例」という。）に基づき、平成１９年３月に基本計画（計画期間：平成１９～２４年度）を策定し、食の安全･安心に関する各種の施策を進めてきた。

平成２５年度からの新たな基本計画を定めるにあたり、食の安全に関する県民意識や食の安全･安心行政に対する要望を把握するため調査する。

（条例第９条第３項で、基本計画策定にあたり県民意見を反映するための措置を講じる規定あり。）

３　調査期間

平成２４年９月２８日（金）～１０月３１日（水）

４　調査方法

郵送調査

５　調査対象者

新潟県に在住する20歳以上の男女

６　回答者数

２９７人（回収率８４．９％）

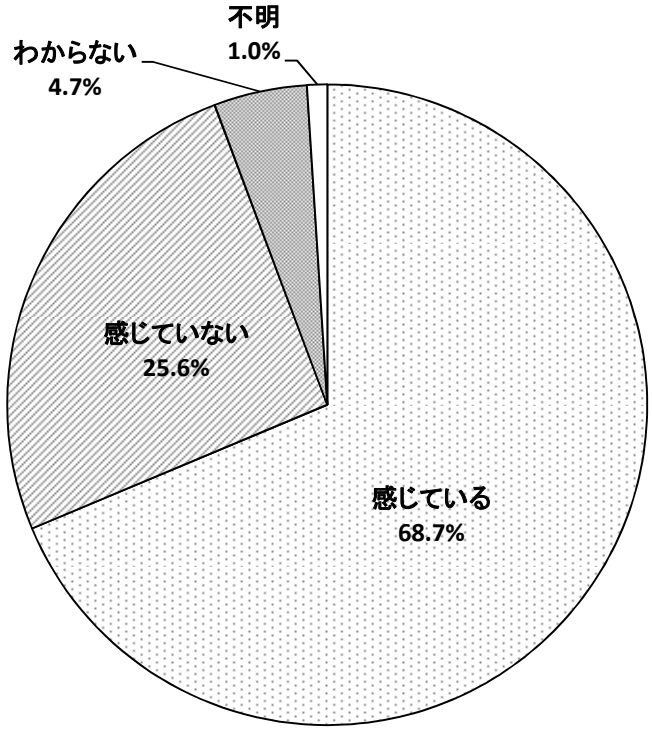
７　アンケート調査回答者の構成

		対象者		回答者		回収率（%）
		実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）	
		350	100.0	297	100.0	84.9
性別	男性	175	50.0	146	49.2	83.4
	女性	175	50.0	151	50.8	86.3
年齢別	２０～３９歳	106	30.3	80	26.9	75.5
	４０～５９歳	122	34.9	104	35.0	85.2
	６０～７９歳	122	34.9	113	38.0	92.6
地区別	下越地区	34	9.7	26	8.8	76.5
	新潟地区	138	39.4	117	39.4	84.8
	中越地区	98	28.0	86	29.0	87.8
	魚沼地区	28	8.0	27	9.1	96.4
	上越地区	42	12.0	34	11.4	81.0
	佐渡地区	10	2.9	7	2.4	70.0

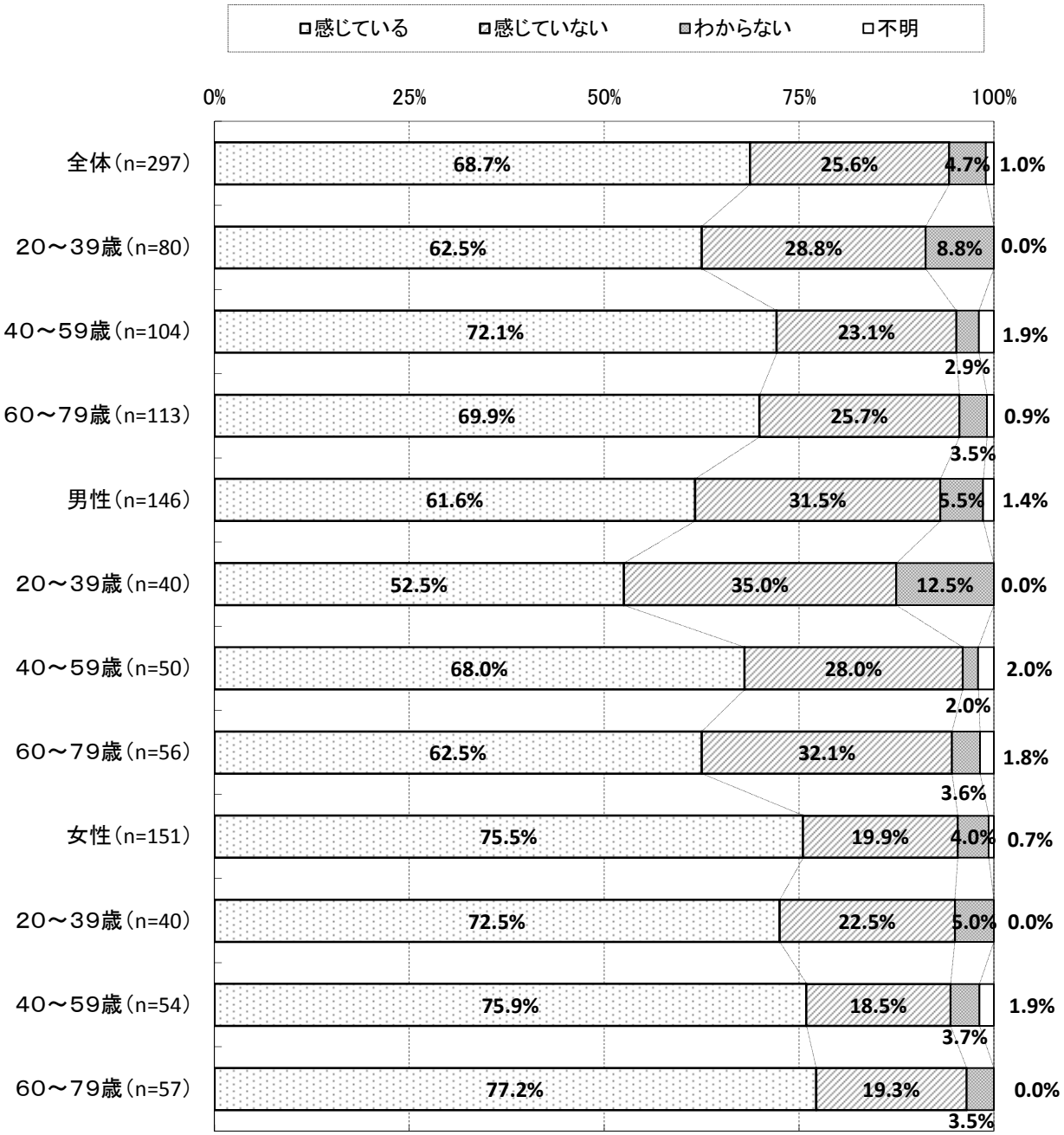
Ⅱ　調査結果の概要

問１：　食品の安全性について不安を感じていますか。
（一つだけ選択）

選択肢	回答数	%
感じている	204	68.7
感じていない	76	25.6
わからない	14	4.7
不明	3	1.0
（全体）	297	100.0



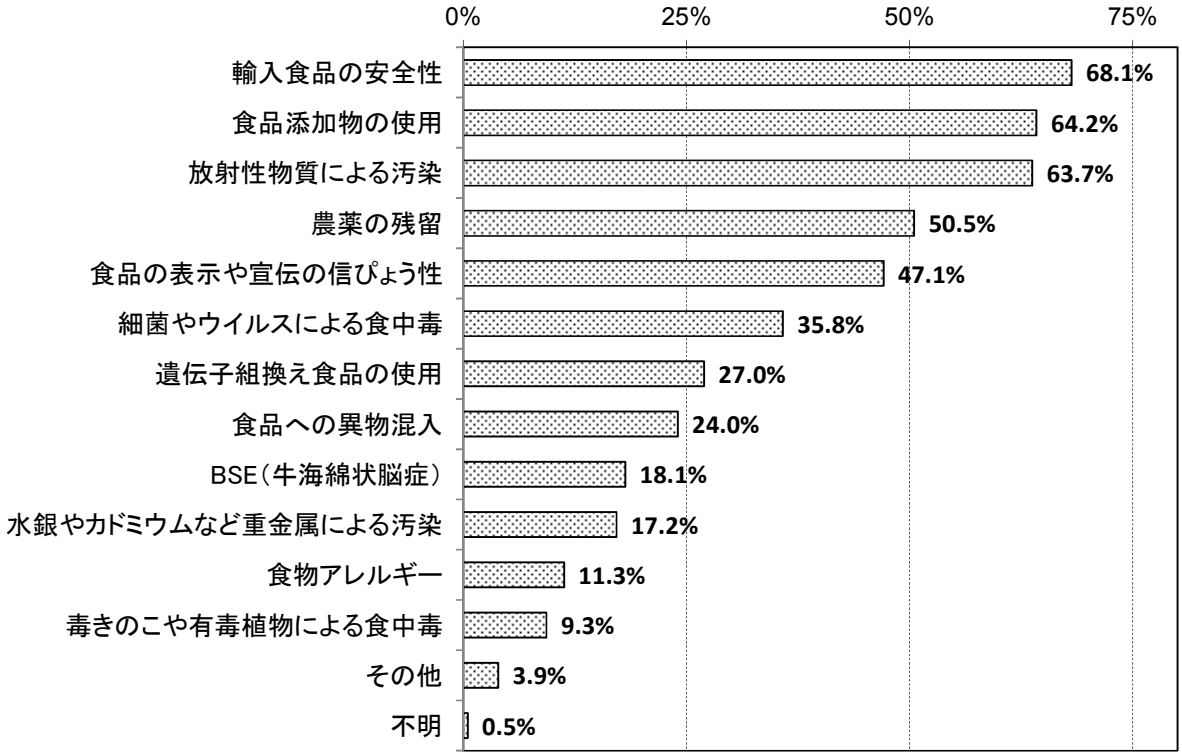
●男女別、年齢別


感じている
感じていない
わからない
不明
0%
25%
50%
75%
100%
全体（n=297）
68.7%
25.6%
4.7%
1.0%
20～39歳（n=80）
62.5%
28.8%
8.8%
0.0%
40～59歳（n=104）
72.1%
23.1%
2.9%
1.9%
60～79歳（n=113）
69.9%
25.7%
3.5%
0.9%
男性（n=146）
61.6%
31.5%
5.5%
1.4%
20～39歳（n=40）
52.5%
35.0%
12.5%
0.0%
40～59歳（n=50）
68.0%
28.0%
2.0%
2.0%
60～79歳（n=56）
62.5%
32.1%
3.6%
1.8%
女性（n=151）
75.5%
19.9%
4.0%
0.7%
20～39歳（n=40）
72.5%
22.5%
5.0%
0.0%
40～59歳（n=54）
75.9%
18.5%
3.7%
1.9%
60～79歳（n=57）
77.2%
19.3%
3.5%
0.0%

【問１で「不安を感じている」と答えた方にお聞きします】

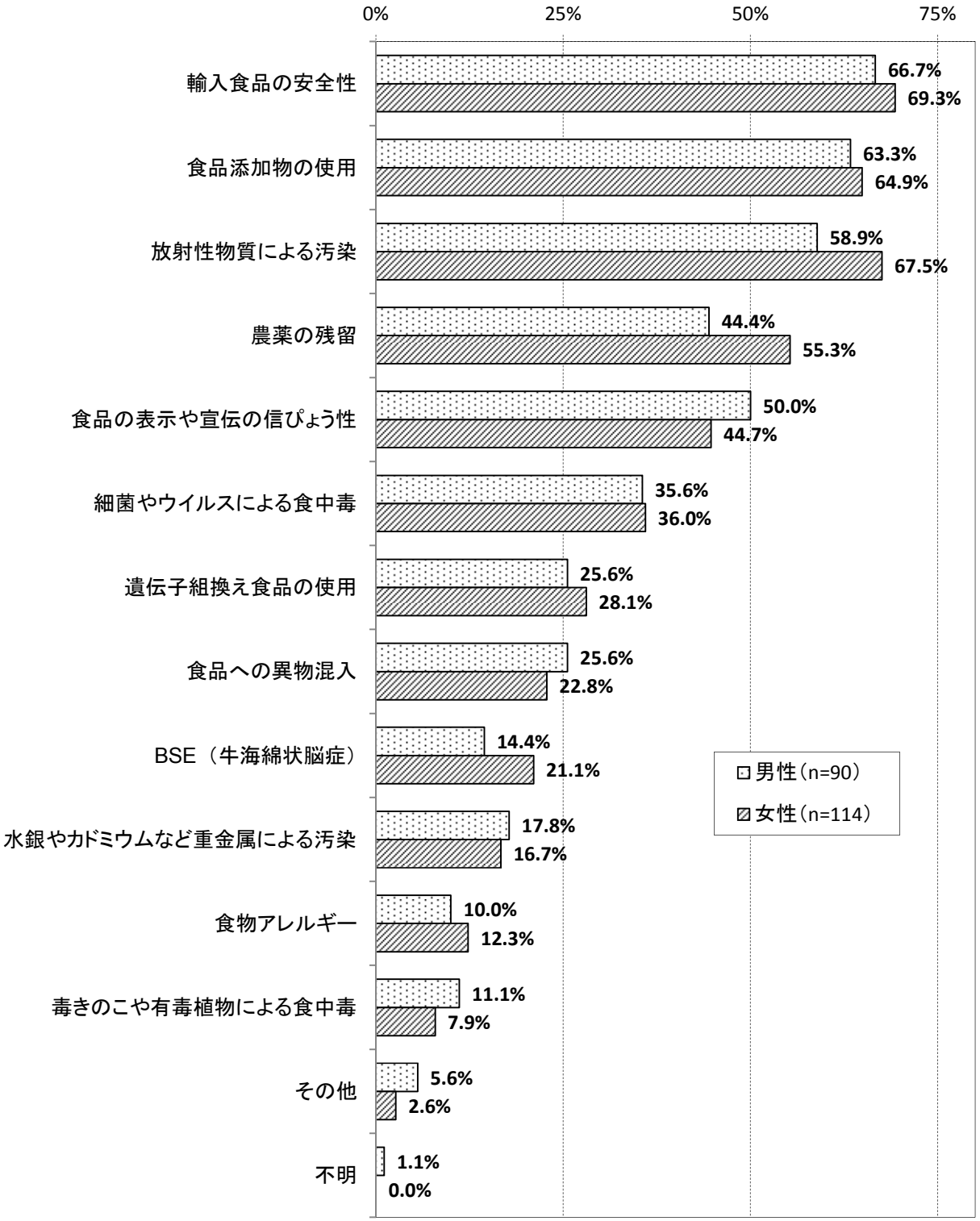
問１−２：　具体的にどのようなことに不安を感じていますか。
（当てはまるもの全て選択）

選択肢	回答数	%
輸入食品の安全性	139	68.1
食品添加物の使用	131	64.2
放射性物質による汚染	130	63.7
農薬の残留	103	50.5
食品の表示や宣伝の信ぴょう性	96	47.1
細菌やウイルスによる食中毒	73	35.8
遺伝子組換え食品の使用	55	27.0
食品への異物混入	49	24.0
BSE（牛海綿状脳症）	37	18.1
水銀やカドミウムなど重金属による汚染	35	17.2
食物アレルギー	23	11.3
毒きのこや有毒植物による食中毒	19	9.3
その他	8	3.9
不明	1	0.5
（全体）	204	100.0

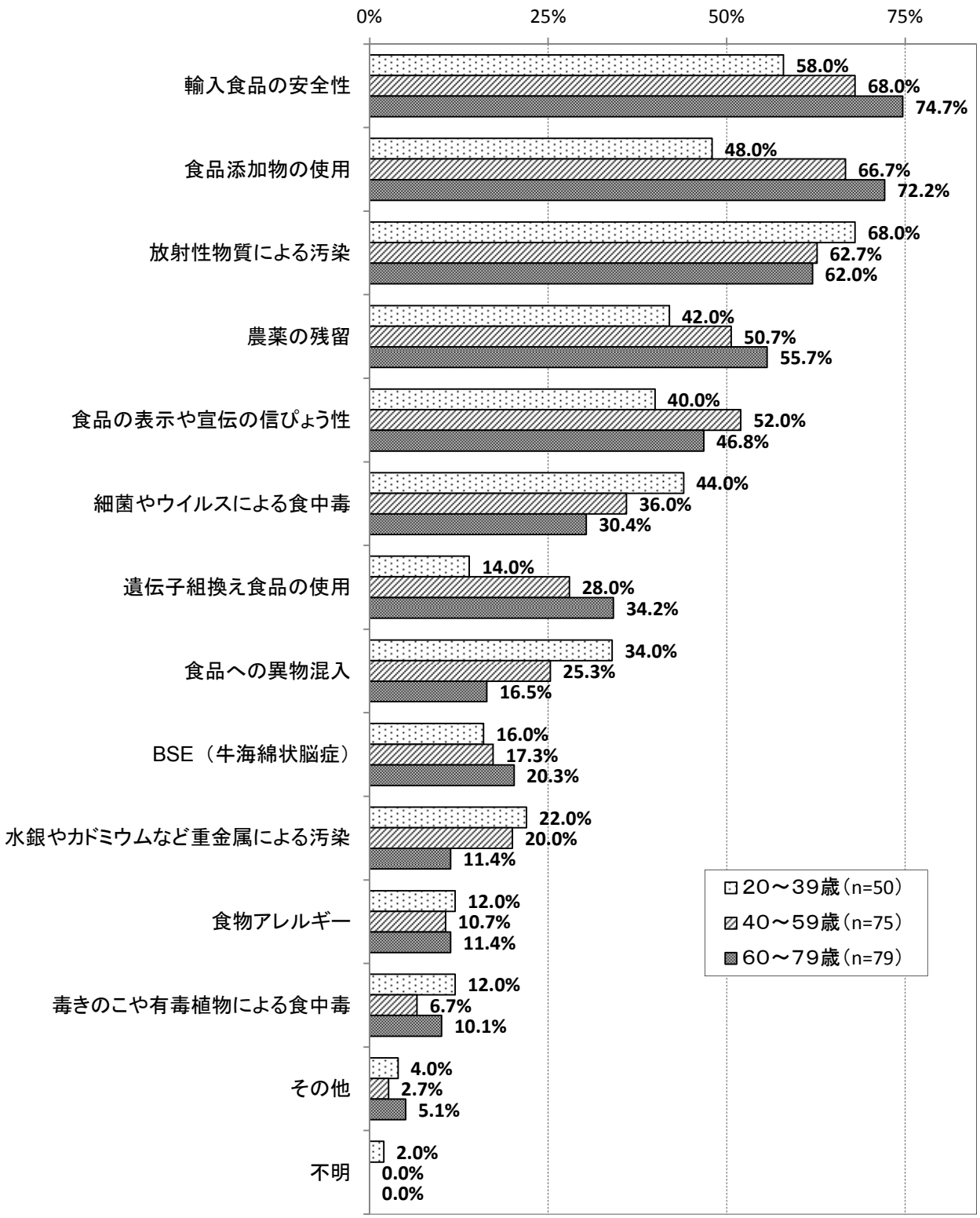


●その他●
・偽装表示などもあり、正しい情報かどうか分からない
・食品添加物の数が多く、一般の人にも分かりやすく種類と性質を県として公表してほしい
・外国産のものは安いが安全性が心配

●男女別


0%
25%
50%
75%
輸入食品の安全性
66.7%
69.3%
食品添加物の使用
63.3%
64.9%
放射性物質による汚染
58.9%
67.5%
農薬の残留
44.4%
55.3%
食品の表示や宣伝の信ぴょう性
50.0%
44.7%
細菌やウイルスによる食中毒
35.6%
36.0%
遺伝子組換え食品の使用
25.6%
28.1%
食品への異物混入
25.6%
22.8%
BSE（牛海綿状脳症）
14.4%
21.1%
水銀やカドミウムなど重金属による汚染
17.8%
16.7%
食物アレルギー
10.0%
12.3%
毒きのこや有毒植物による食中毒
11.1%
7.9%
その他
5.6%
2.6%
不明
1.1%
0.0%
男性（n=90）
女性（n=114）

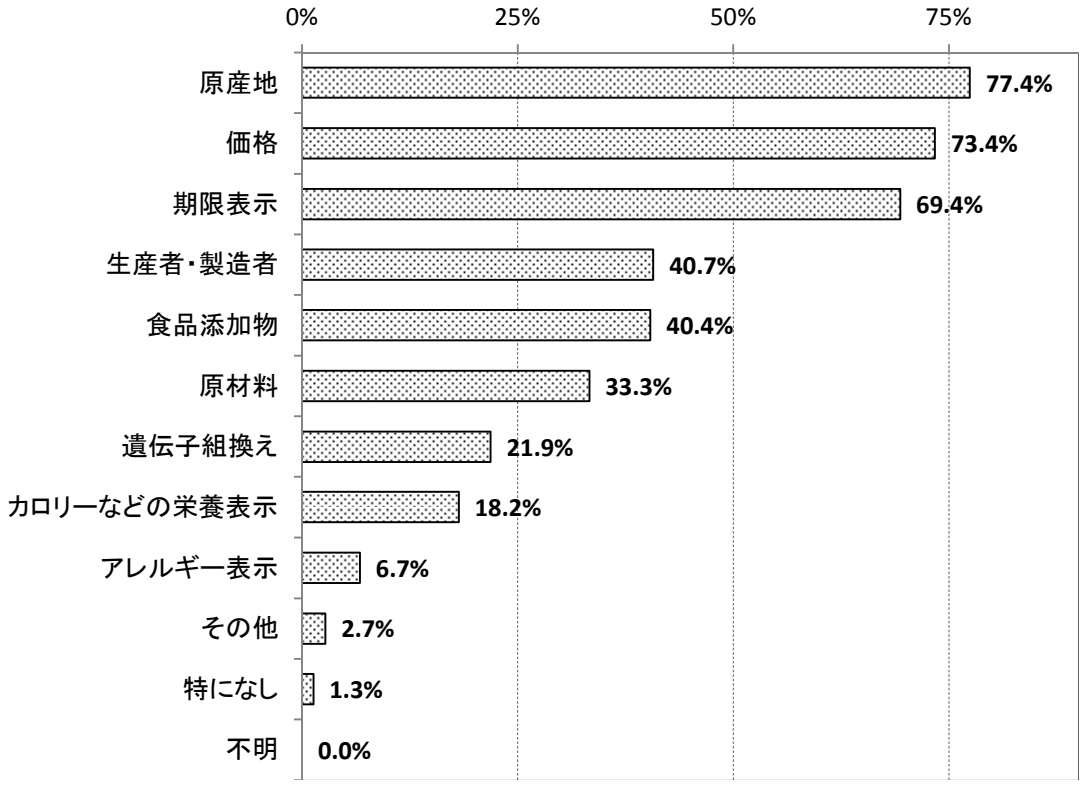
●年齢別


0%
25%
50%
75%
輸入食品の安全性
58.0%
68.0%
74.7%
食品添加物の使用
48.0%
66.7%
72.2%
放射性物質による汚染
68.0%
62.7%
62.0%
農薬の残留
42.0%
50.7%
55.7%
食品の表示や宣伝の信ぴょう性
40.0%
52.0%
46.8%
細菌やウイルスによる食中毒
44.0%
36.0%
30.4%
遺伝子組換え食品の使用
14.0%
28.0%
34.2%
食品への異物混入
34.0%
25.3%
16.5%
BSE（牛海綿状脳症）
16.0%
17.3%
20.3%
水銀やカドミウムなど重金属による汚染
22.0%
20.0%
11.4%
食物アレルギー
12.0%
10.7%
11.4%
毒きのこや有毒植物による食中毒
12.0%
6.7%
10.1%
その他
4.0%
2.7%
5.1%
不明
2.0%
0.0%
0.0%
20～39歳（n=50）
40～59歳（n=75）
60～79歳（n=79）

【以降、すべての方にお聞きします】

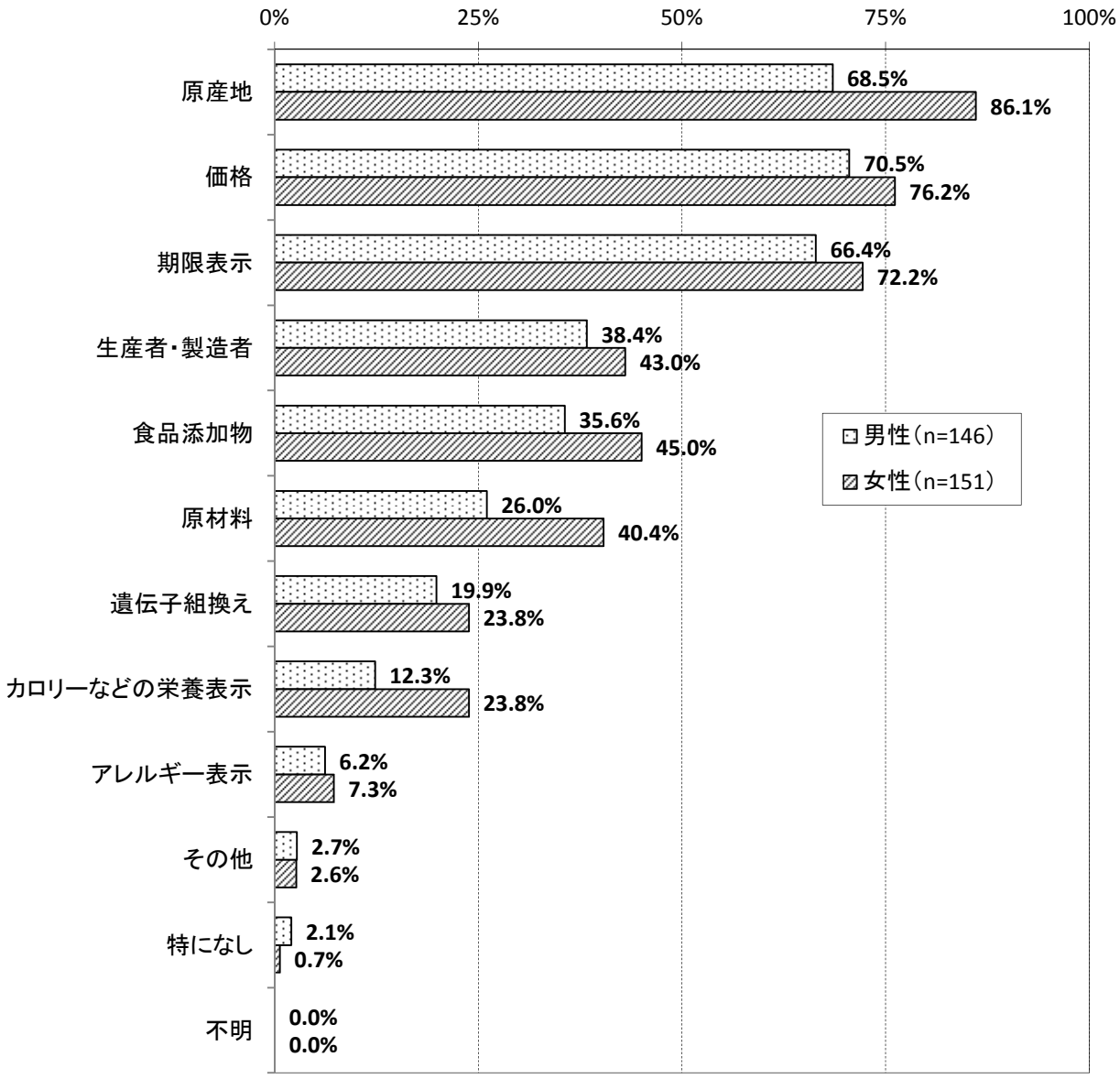
問２：　食品を購入する際、どの表示事項を重視していますか。
（当てはまるもの全て選択）

選択肢	回答数	%
原産地	230	77.4
価格	218	73.4
期限表示	206	69.4
生産者･製造者	121	40.7
食品添加物	120	40.4
原材料	99	33.3
遺伝子組換え	65	21.9
カロリーなどの栄養表示	54	18.2
アレルギー表示	20	6.7
その他	8	2.7
特になし	4	1.3
不明	0	0.0
（全体）	297	100.0

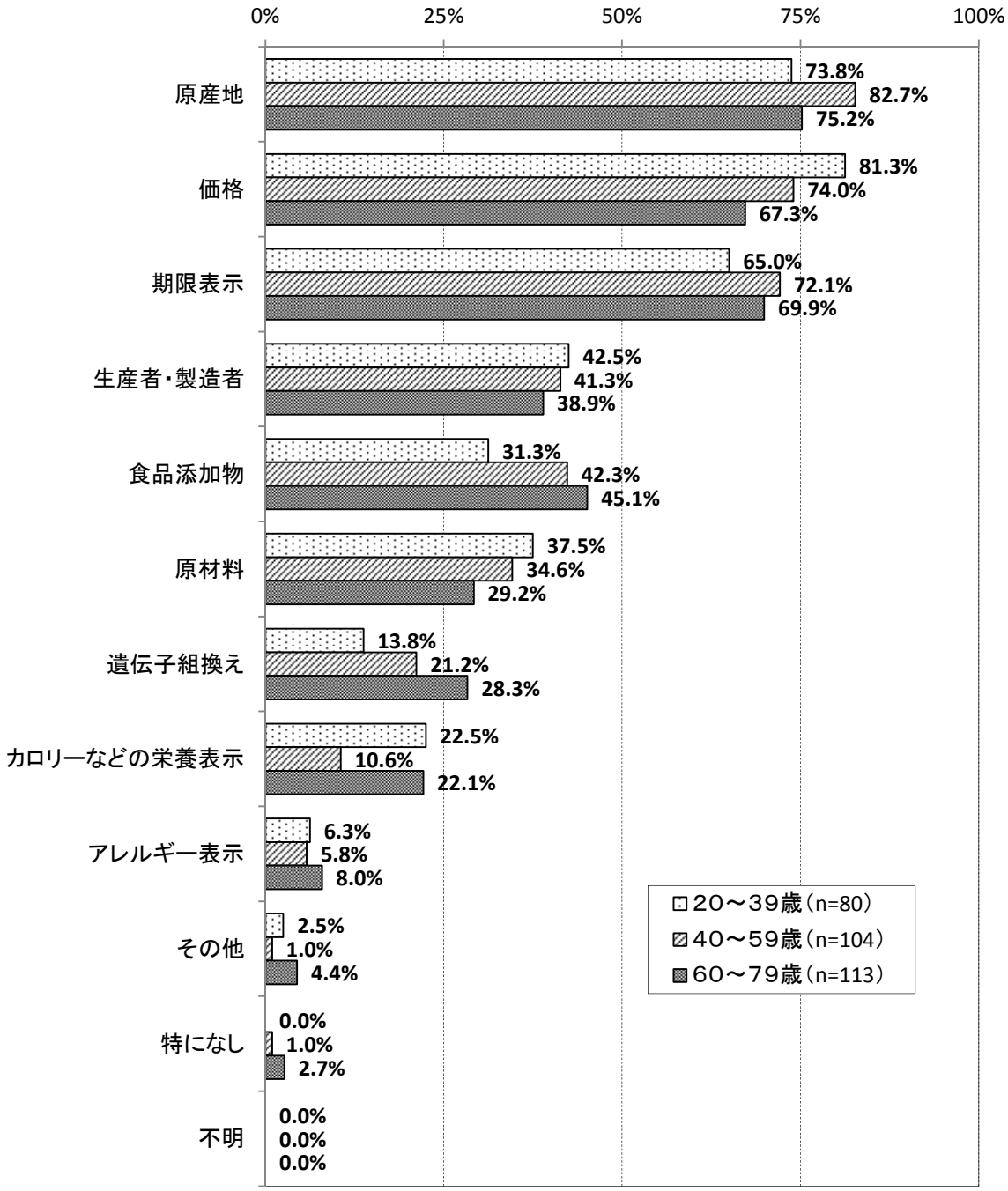


●その他●
- 旬のものかどうか
- 外国産かどうか
- 肉などは「国産」というだけでなく、産地を記載してほしい
- 地場産のものを直売所で買うようにしている

●男女別


0%
25%
50%
75%
100%
原産地
68.5%
86.1%
価格
70.5%
76.2%
期限表示
66.4%
72.2%
生産者・製造者
38.4%
43.0%
食品添加物
35.6%
45.0%
原材料
26.0%
40.4%
遺伝子組換え
19.9%
23.8%
カロリーなどの栄養表示
12.3%
23.8%
アレルギー表示
6.2%
7.3%
その他
2.7%
2.6%
特になし
2.1%
0.7%
不明
0.0%
0.0%
男性（n=146）
女性（n=151）

●年齢別

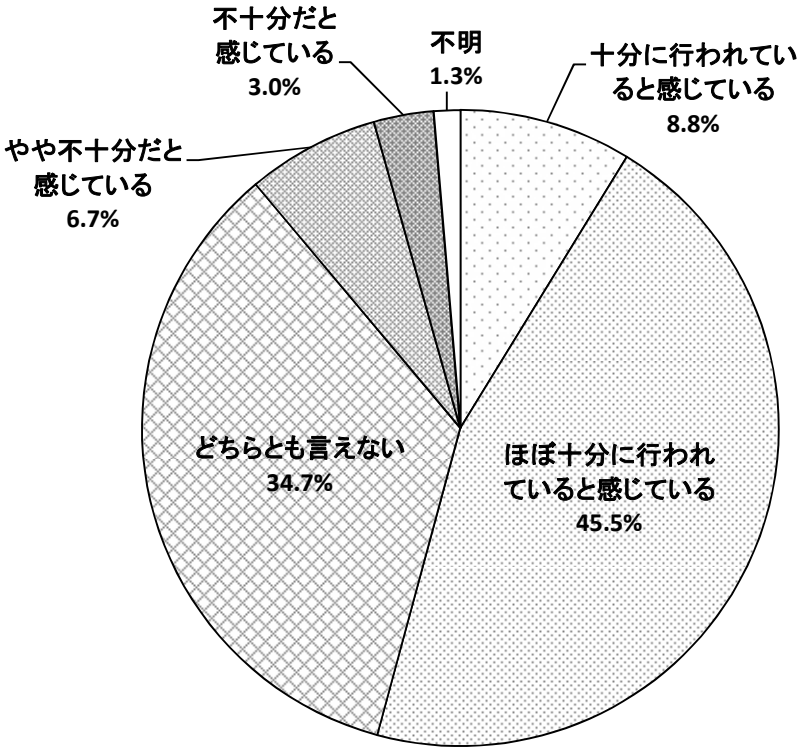

0%
25%
50%
75%
100%
原産地
73.8%
82.7%
75.2%
価格
81.3%
74.0%
67.3%
期限表示
65.0%
72.1%
69.9%
生産者・製造者
42.5%
41.3%
38.9%
食品添加物
31.3%
42.3%
45.1%
原材料
37.5%
34.6%
29.2%
遺伝子組換え
13.8%
21.2%
28.3%
カロリーなどの栄養表示
22.5%
10.6%
22.1%
アレルギー表示
6.3%
5.8%
8.0%
その他
2.5%
1.0%
4.4%
特になし
0.0%
1.0%
2.7%
不明
0.0%
0.0%
0.0%
20～39歳(n=80)
40～59歳(n=104)
60～79歳(n=113)

問３：県では、「にいがた食の安全・安心条例」を制定し、下図に示したような取組を重点的に行っているところです。
　これらの取組を含めて、新潟県における食の安全・安心の取組についてどのように感じていますか。　（１つだけ選択）

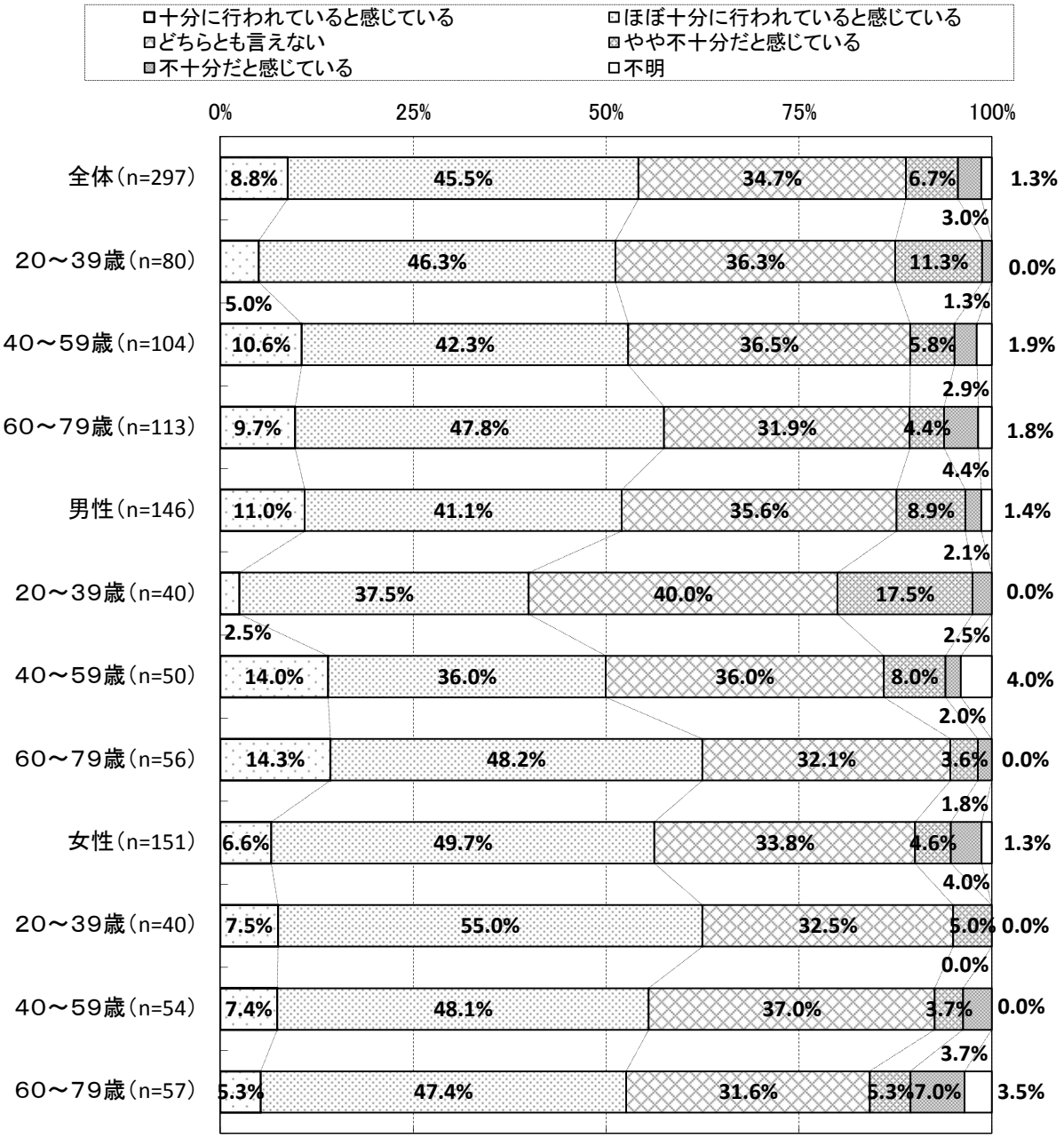
店頭掲示板

食の安全・安心に関する意見交換会

選択肢	回答数	%
十分に行われていると感じている	26	8.8
ほぼ十分に行われていると感じている	135	45.5
どちらとも言えない	103	34.7
やや不十分だと感じている	20	6.7
不十分だと感じている	9	3.0
不明	4	1.3
（全体）	297	100.0



●男女別、年齢別


十分に行われていると感じている
ほぼ十分に行われていると感じている
どちらとも言えない
やや不十分だと感じている
不十分だと感じている
不明
0%
25%
50%
75%
100%
全体（n=297）
8.8%
45.5%
34.7%
6.7%
1.3%
3.0%
20～39歳（n=80）
46.3%
36.3%
11.3%
0.0%
5.0%
1.3%
40～59歳（n=104）
10.6%
42.3%
36.5%
5.8%
1.9%
2.9%
60～79歳（n=113）
9.7%
47.8%
31.9%
4.4%
1.8%
4.4%
男性（n=146）
11.0%
41.1%
35.6%
8.9%
1.4%
2.1%
20～39歳（n=40）
37.5%
40.0%
17.5%
0.0%
2.5%
2.5%
40～59歳（n=50）
14.0%
36.0%
36.0%
8.0%
4.0%
2.0%
60～79歳（n=56）
14.3%
48.2%
32.1%
3.6%
0.0%
1.8%
女性（n=151）
6.6%
49.7%
33.8%
4.6%
1.3%
4.0%
20～39歳（n=40）
7.5%
55.0%
32.5%
5.0%
0.0%
0.0%
40～59歳（n=54）
7.4%
48.1%
37.0%
3.7%
0.0%
3.7%
60～79歳（n=57）
5.3%
47.4%
31.6%
5.3%
7.0%
3.5%

問４：　問３の回答の具体的な理由はなんですか。（記述回答）
（記載例：〇〇の取組が評価できる。取組を知らない。〇〇の取組が足りない。など）

＜「十分に行われていると感じている」と回答した理由＞

●地産地消の実施は良いことだと思う。
●子どもの頃から食育を行い食に関心を持つ事が多くなっていると感じる。
●学校給食で地産地消運動や子どもへの食の大切さを教えている。
●学校給食での使用拡大が評価できる。
●食品の検査の取組が評価できる。
●食品事業者への指導等、評価できる。食品の検査にも重点をおいているので十分と感じる。
●食品事業者に対する指導が評価できる。
●放射性物質の検査、地産地消などの取組が行われている。
●放射性物質はやはり気になるので、その取組は評価できると思う。
●環境にやさしい農業の推進の取組が評価できる。
●ホームページ、広報などで知ることができている。
●多方面に取組を行っていて良いと思う。生産者や関係者が意識を持って動いてくれることを望む。
●行政の取組を信じている。
●食の安全への取組がよい。

＜「ほぼ十分に行われていると感じている」と回答した理由＞

●学校の給食に地産を活用していることが大変良いと思う。
●直売所の設置支援を強化すべき。
●地産地消運動の取組が評価できる。
●地産地消の実施について、学校給食での取組が評価できる。
●地産地消の取組のおかげで、県産野菜などの消費が増え、おいしい給食を子どもが食べられている。
●直売所の増加。学校給食に地産地消の推進として、地元の食材が多く取り入れられるようになってきた。
●農家、農協の直売所があり、新鮮な食品を購入出来るのでとても有難い。学校給食の米飯、産地野菜の献立が評価できる。
●地産地消の行動が広く行なわれている。放射線の検査が身近でもできるようになってきた。
●学校給食で、地元の食材が多く使われているところが良いと思う。
●子どもが通っている学校では、給食で地産地消を取り組んでいる。
●食品の検査の取組が評価できる。

●食品の検査の取組（新聞やテレビで発表）が評価できる。

●食品の検査や食品事業者に対する指導が評価できる。

●食品の検査については報道されており、安全面についての取組は評価できると思う。

●放射性物質検査は区域を小さくして測定してほしい。

●食品の検査と食品事業者に対する指導を県が重点的に行っているという安心感は何ものにもかえがたい。そして、地産地消はとても理想的である。

●食品検査については、評価できる。その他は、あまり実感はない。

●放射性物質検査は評価できる。

●国内の食品の基準が厳しいので安心している。

●食品の検査の結果が簡単に知ることができた方が良いと思う。

●農薬の軽減の取組が評価できる。

●生産・製造者の顔が分かるようになった。

●環境にやさしい農業の推進、地産地消運動の実施が評価できる。

●放射性物質の検査結果など、毎日新聞に載っていたり、ホームページを見たりできる。

●安全情報への取組を評価できる。

●放射性物質の検査を行うと、テレビのニュースやラジオで検査結果が流れるので、情報発信をしていると分かり安心できた。

●県内の放射線測定値等、新聞、テレビ等で確認することができる。

●放射性物質検査については、県では、重要課題で取り組まれていると思うが、もっと安心がもてる様に小まめに広報等してもらいたい。

●安全情報の提供が不十分だと思う。

●取組のことは全然分からないが、ニュースになる事などもないので安全性は高いと思っている。

●現在は特に問題はないが、これから先どんな問題が起きるか分からないので「ほぼ」にした。

●取組を行っている事は知らなかったが、重点的に行っている事を知り安心した。今後も安全・安心を第一に考えて取り組んでいただけたらと思います。

●なんとなくですが、食に対して取組ができているイメージがあります。

●県内において、特に食品のトラブル等が生じたというニュースがないので、取組がうまくいっているのではないかと思う。

●現実的に可能なことを実施していると思う。

●それぞれの重点事項の取組が評価できる。

●全体的にしっかりやっていると感じる。

●重点的に行っている取組で評価できる。

●想像以上に取り組まれていると感じた。

●県産品を、地元での消費と東京への宣伝で消費を進めていること。

●基本的な取組は実施していると思う。

●保健福祉部食育応援団などの活動が評価できる。

●全般に一生懸命にやっていることを感じる。

●この用紙で内容を知ったので十分と答えたが、個人的には今まで知らなかった。

●いろいろな取組のおかげで、他県に比べて新潟県産の食品は安心して食べられる。

●店頭で販売している食品はすべて安心で安全、条例に合致しているものと思っている。

●今のままでも十分だが、より良い取組を考えてほしいから。

●ネットではじめて食の安全の取組情報を確認した。かなりの情報があり、食に対する安全の取組は評価できると思う。

●取組は分かるが、一般の人にもっと講習をして分かりやすいように広めてほしい。

●県ではない機関がどのような取組をしているのか分からない。

●飲食業をしているので、食品衛生に対しては注意深く関わっているが、一般の人には周知の点でやや不十分な所があると思う。特に今は放射性物質だけに気を取られているように思う。

●話題になっているものだけでなく、従来から使われている添加物の安全性や影響を検証しつづけてほしい。

●ホームページの充実と言われてもパソコンがないと分からない。

●取組を知らない。

●具体的な主な取組内容が一般市民に知られてないと思う。

●取組は十分だと思うがその事をほぼ知らなかったため。

●中国産の食品などの農薬・衛生面が心配だ。

●ホームページが見ることを知ってから取組が分かったが、ホームページを知らなければ不安だ。

●「食品の検査」以外の取組は良く知らなかった。広報面での工夫がほしい。

＜「どちらとも言えない」と回答した理由＞

●地産地消運動は評価できる。

●直売所の取組が評価できる。

●地産地消運動が地元生産者保護の色が濃過ぎると感じる。

●取組の宣伝が少なく知らなかった。地産地消を直売や学校給食以外での機会を増やしてほしい。共稼ぎ世帯では直売へ行くことが難しいので、もっと気軽に購入できるシステムをつくってほしい。

●食品の検査の取組が評価できる。

●8,000 点の品とはなんだろうか。年2回の食品業者にどの様な指導をしているか分かりやすく説明がほしい。

●なかなか難しいとは思うが、中・小企業の指導はどのようになっているのか。ホームページなどを見ない人たちもいると思うので情報発信に工夫が必要ではないか。

●食品事業者に対する指導について本当にしっかり指導できているのか疑問がある。形式的なものになっていないか。

●なぜ大規模施設だけ年2回以上の衛生指導なのか。小規模施設の方が劣悪に思える。

●食品事業者等の抜き打ち検査や指導はできる限りやるべき。

●取組を知らない。中・小規模施設への指導は行われているのか不安だ。

●いち早く放射性物質検査を行ったことが評価できる。他の取組は知らない。

●放射性物質検査や地産地消運動の実施については評価できるがその他の取組はあまり知られていない。
●放射性物質検査をしているとニュースで見て、少し安心できる。
●放射性物質のことに関しては、前例がないこともあり、現状の検査体制が十分かどうか分からない。
●生産地での各種検査値等の安全性は表示されているが、一部の地域の検査であり、広範な地域での検査値でない。
●努力はしていると思うが…。せっかく農業県なのだから JA と協力して今のしくみ（農家がもうからない）を変えてほしい。農薬・化学肥料を使わず（減らして）栽培する農家へのサポート（補助金）をもっと手厚くして、慣行農法からの脱却を促すなど抜本的な改革がほしい。
●ホームページを通して知ることが出来るが、パソコン操作の出来ない両親世代には伝わらないように感じる。
●ホームページ等の案内活動は評価できる。テレビコマーシャルを使ってのアピールもした方が良いのではないか。
●重要なのは取組の数ではなく、その内容だ。高齢者などが気軽に情報を得られるようなものを増やすべきだと思います。
●放射性物質検査は新聞でよく目にするが他はあまり目にしない。
●あまり考えたことがない。
●加工品、調理品の内容物については詳しいことが分からない。
●実際の取組の中で、知っているものが半分くらいだった。
●中国などの海外の食品の安全確保対策が必要だと思う。
●調べれば取り組んでいることは分かるが、一般への認知が足りないと思う。
●取組は評価できるがどこまでやってもこれで良いとは思わない
●取組を全部知らなかった。知っていたのは、放射性検査・地産地消くらい。
●取組は評価できるが、実際評価できるまでの感じがない。
●地産地消の取組は知っていたが、「県」としての活動とは知らなかった。他の取組の存在も分からなかったし、その効果等についての情報も知らない。
●取組を知らなかった。
●やっているとは思うが情報が入ってこない。
●県民に対する取組のアピールが足りないから評価ができない。
●取組についての情報が少ないと思う。
●いずれの取組も周知が足りないと思う。

＜「やや不十分だと感じている」と回答した理由＞

●食品の検査の回数を増やしてもらいたい（放射性物質、残留農薬、添加物）。食品業者に対する指導にもう少し力を入れてもらいたい。

●放射性物質検査について、情報が少なく、現在でも県外産の食品を含め購入をためらうものが多い。8,000 品が多いのか少ないのが分からないが、地域別、時期別に検査を細かくしてほしい。結果をスーパーの売り場など目に付く場所に示してほしい。

●指導が年2回では少ないように思う。

●普段、取組を目にすることが少ない。産直スーパーなど、食品系の小売店などにもポスターがほしい。

●食の安全情報についてホームページ等では表示されているが、場所が分かりにくく、さらに店頭でも表示を見たことがない。

●すべてが不安だ。

●食の安全・安心のイベントの開催等に地域性の配慮が欲しい。

●全般的に取組内容が分からない。

●県で取り組んでいることはほとんど知らない。話題にもなっていない。

●取組を知らない。

●前ページの図のような食の安全･安心確保のための総合的な取組を実施しているとは知らなかったから。

＜「不十分だと感じている」と回答した理由＞

●食品事業者の指導が足りない。

●食品検査の取組が足りないと思う。

●食品添加物や残留農薬等の検査が足りないように思う。

●新潟県こそ、農業に力を入れ、県内の需要を賄うことはもちろん、他県から農作物をどんどん買ってもらえるようになってほしい。魅力のある農業となる取組を進めて若い人が就労してくれることを望む。

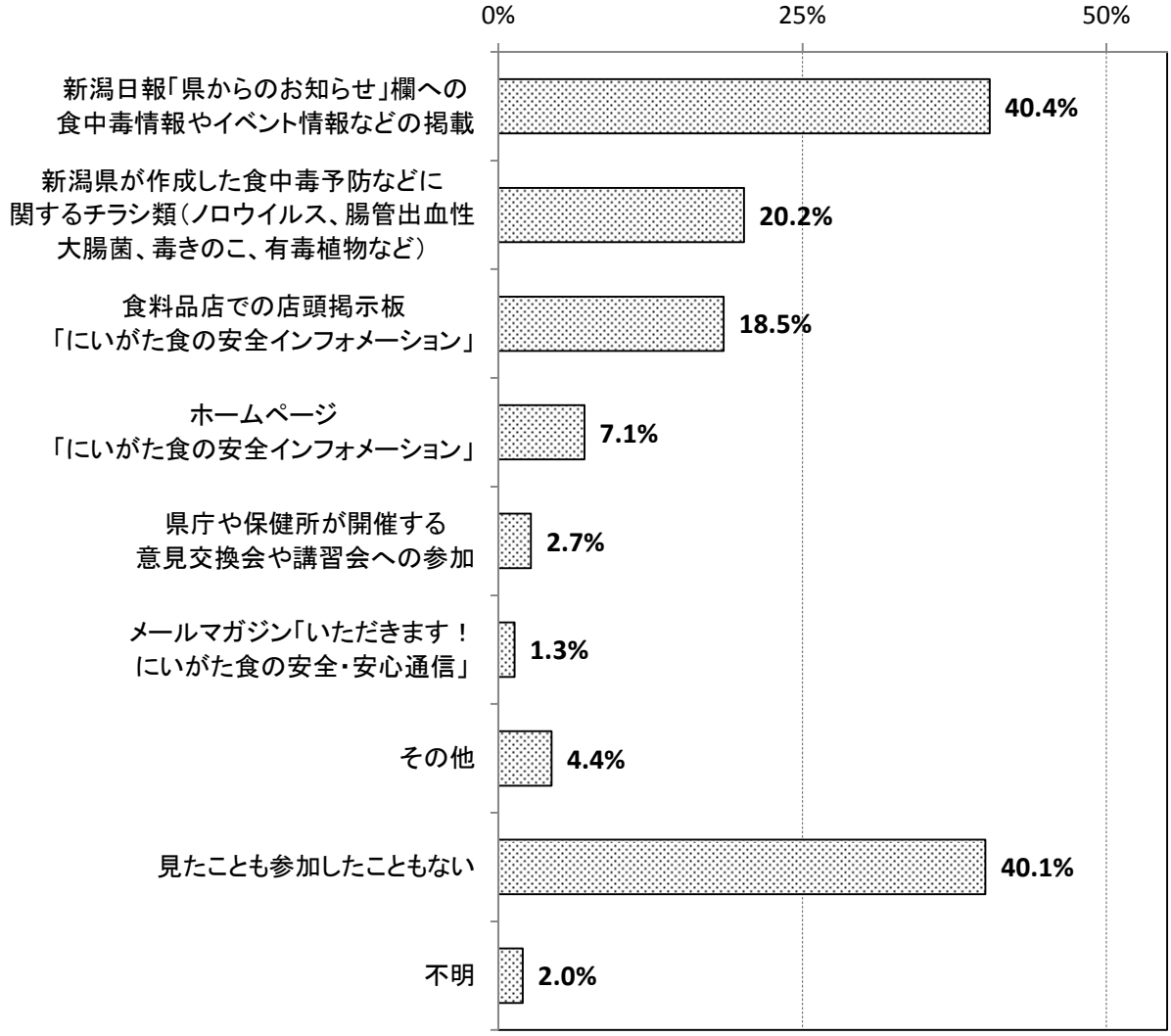
●取組を知らない時点で安全・安心とは思えない。

●取組を感じられない。

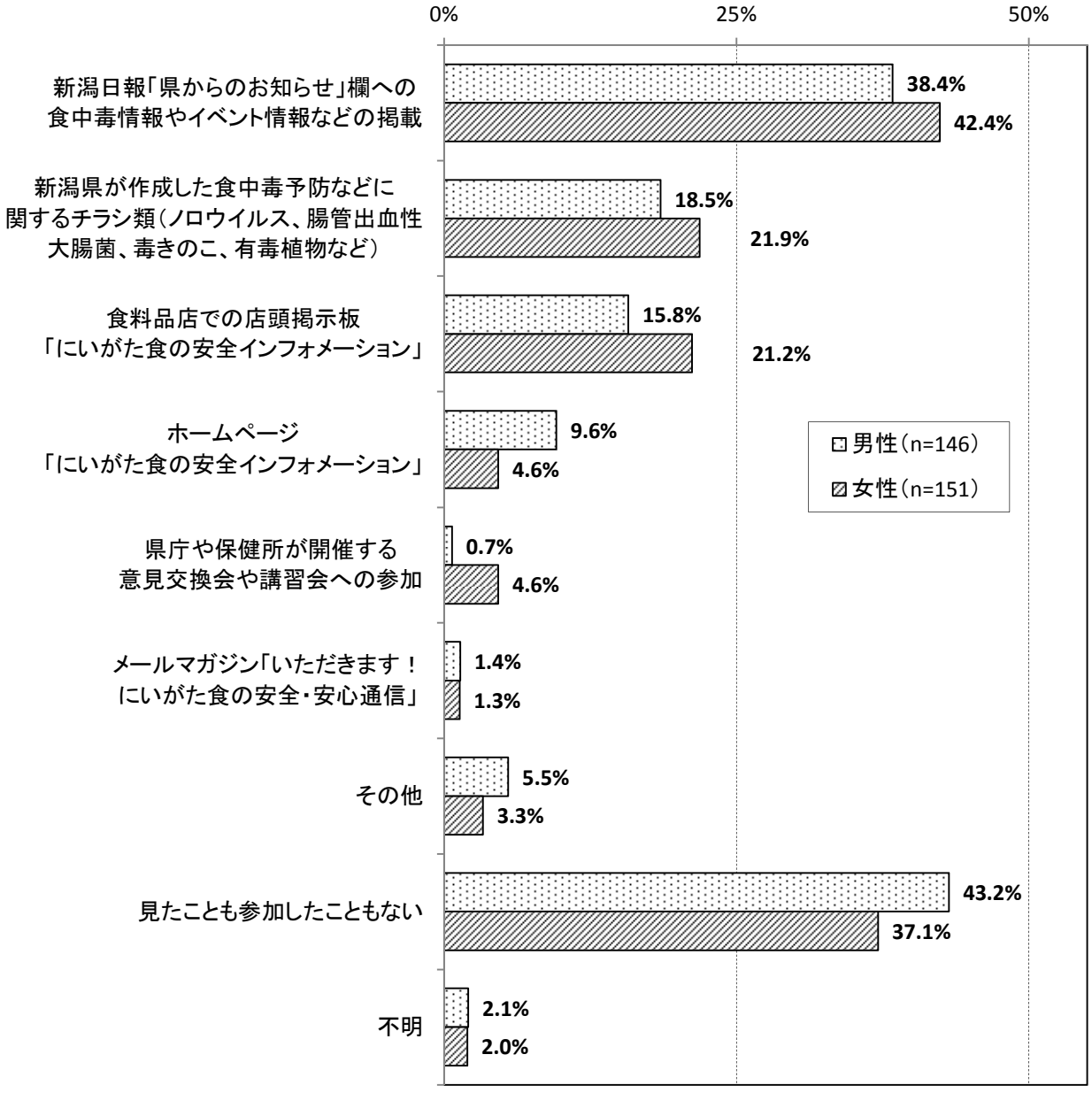
●地産地消については見たり聞いたりすることもあるが、他の取組は分からない。

問５：　県では主に次の方法により食の安全に関する情報を発信していますが、見たことや参加したことがあるものはありますか。
（当てはまるもの全て選択）

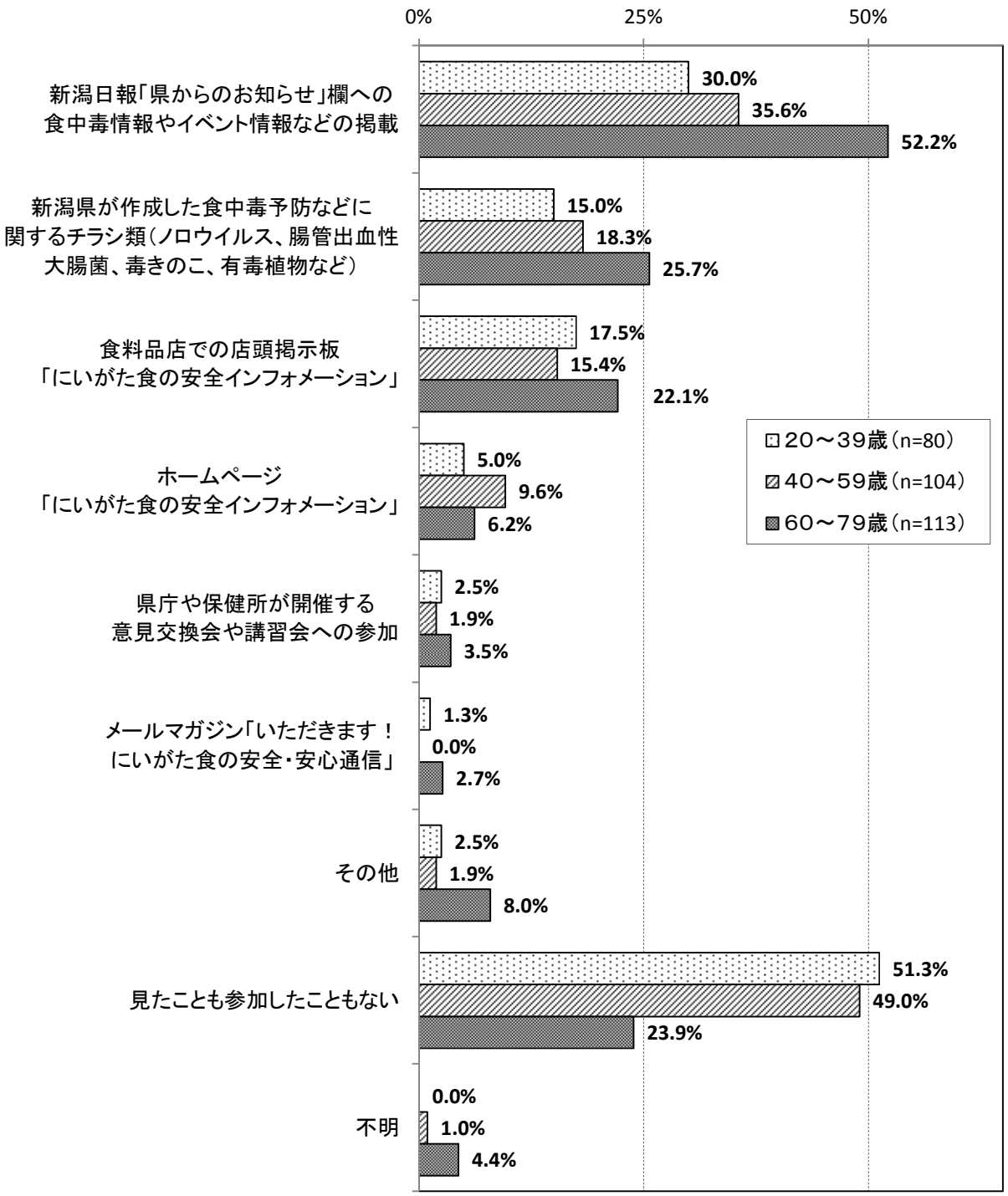
選択肢	回答数	%
新潟日報「県からのお知らせ」欄への食中毒情報やイベント情報などの掲載	120	40.4
新潟県が作成した食中毒予防などに関するチラシ類（ノロウイルス、腸管出血性大腸菌、毒きのこ、有毒植物など）	60	20.2
食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」	55	18.5
ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	21	7.1
県庁や保健所が開催する意見交換会や講習会への参加	8	2.7
メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	4	1.3
その他	13	4.4
見たことも参加したこともない	119	40.1
不明	6	2.0
（全体）	297	100.0



●男女別

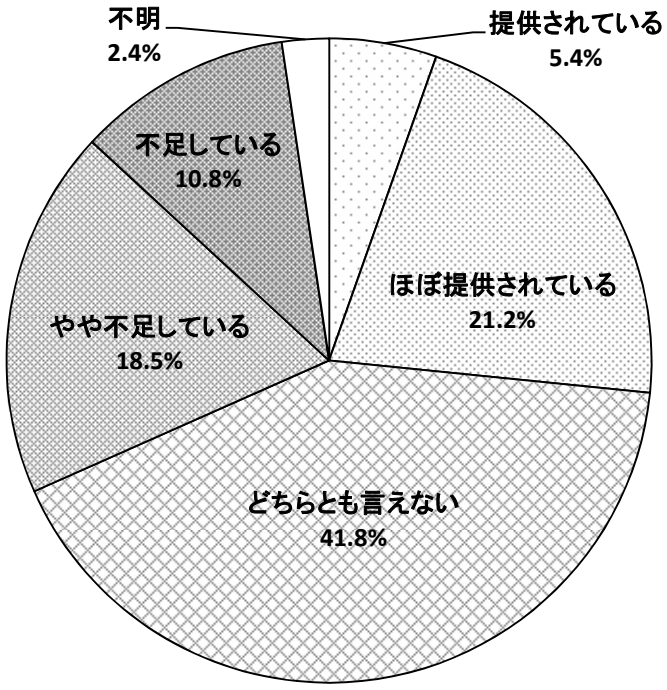

0%
25%
50%
新潟日報「県からのお知らせ」欄への
食中毒情報やイベント情報などの掲載
38.4%
42.4%
新潟県が作成した食中毒予防などに
関するチラシ類（ノロウイルス、腸管出血性
大腸菌、毒きのこ、有毒植物など）
18.5%
21.9%
食料品店での店頭掲示板
「にいがた食の安全インフォメーション」
15.8%
21.2%
ホームページ
「にいがた食の安全インフォメーション」
9.6%
4.6%
県庁や保健所が開催する
意見交換会や講習会への参加
0.7%
4.6%
メールマガジン「いただきます！
にいがた食の安全・安心通信」
1.4%
1.3%
その他
5.5%
3.3%
見たことも参加したこともない
43.2%
37.1%
不明
2.1%
2.0%
男性（n=146）
女性（n=151）

●年齢別

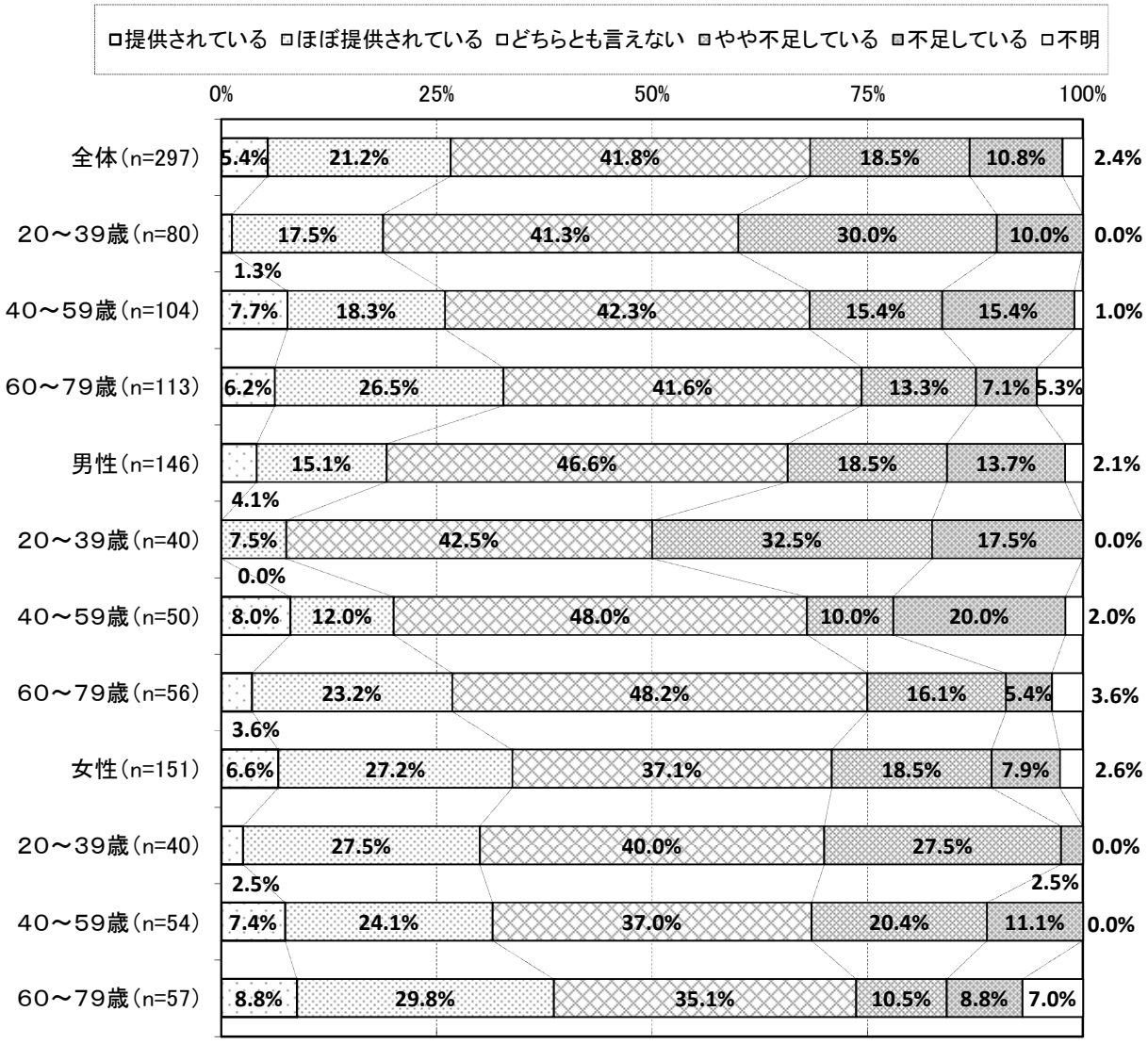

0%
25%
50%
新潟日報「県からのお知らせ」欄への食中毒情報やイベント情報などの掲載
30.0%
35.6%
52.2%
新潟県が作成した食中毒予防などに関するチラシ類（ノロウイルス、腸管出血性大腸菌、毒きのこ、有毒植物など）
15.0%
18.3%
25.7%
食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」
17.5%
15.4%
22.1%
ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」
5.0%
9.6%
6.2%
県庁や保健所が開催する意見交換会や講習会への参加
2.5%
1.9%
3.5%
メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」
1.3%
0.0%
2.7%
その他
2.5%
1.9%
8.0%
見たことも参加したこともない
51.3%
49.0%
23.9%
不明
0.0%
1.0%
4.4%
20～39歳（n=80）
40～59歳（n=104）
60～79歳（n=113）

問６：　県から食の安全・安心についての情報が県民に向けて十分に提供されていると感じますか。（１つだけ選択）

選択肢	回答数	%
提供されている	16	5.4
ほぼ提供されている	63	21.2
どちらとも言えない	124	41.8
やや不足している	55	18.5
不足している	32	10.8
不明	7	2.4
（全体）	297	100.0

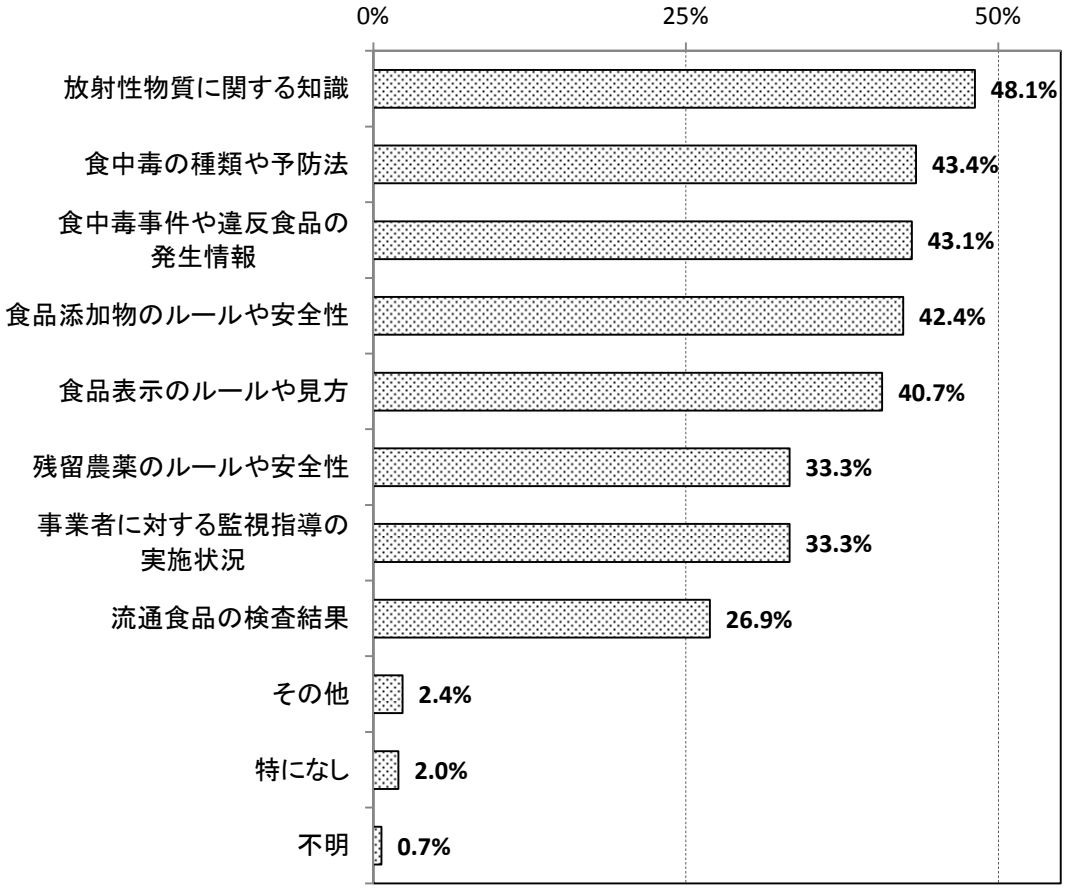


●男女別、年齢別


□提供されている □ほぼ提供されている □どちらとも言えない □やや不足している □不足している □不明
0%
25%
50%
75%
100%
全体（n=297） 5.4% 21.2% 41.8% 18.5% 10.8% 2.4%
20～39歳（n=80） 1.3% 17.5% 41.3% 30.0% 10.0% 0.0%
40～59歳（n=104） 7.7% 18.3% 42.3% 15.4% 15.4% 1.0%
60～79歳（n=113） 6.2% 26.5% 41.6% 13.3% 7.1% 5.3%
男性（n=146） 4.1% 15.1% 46.6% 18.5% 13.7% 2.1%
20～39歳（n=40） 7.5% 42.5% 32.5% 17.5% 0.0%
40～59歳（n=50） 0.0% 8.0% 12.0% 48.0% 10.0% 20.0% 2.0%
60～79歳（n=56） 3.6% 23.2% 48.2% 16.1% 5.4% 3.6%
女性（n=151） 6.6% 27.2% 37.1% 18.5% 7.9% 2.6%
20～39歳（n=40） 2.5% 27.5% 40.0% 27.5% 2.5% 0.0%
40～59歳（n=54） 7.4% 24.1% 37.0% 20.4% 11.1% 0.0%
60～79歳（n=57） 8.8% 29.8% 35.1% 10.5% 8.8% 7.0%

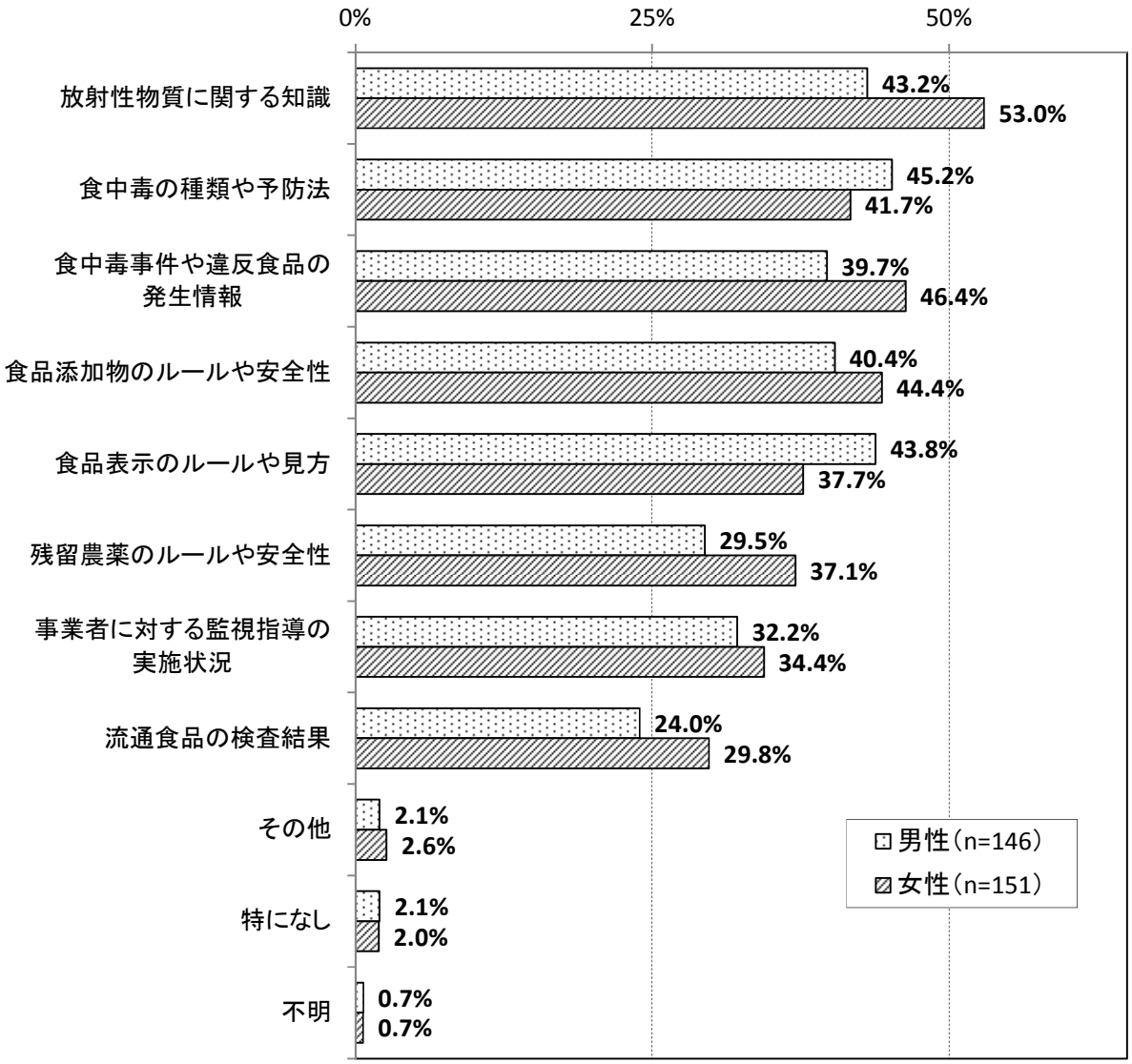
問７：　食の安全に関する情報で、県から特に情報発信してほしい内容はどれですか。（当てはまるもの全て選択）

選択肢	回答数	%
放射性物質に関する知識	143	48.1
食中毒の種類や予防法	129	43.4
食中毒事件や違反食品の発生情報	128	43.1
食品添加物のルールや安全性	126	42.4
食品表示のルールや見方	121	40.7
残留農薬のルールや安全性	99	33.3
事業者に対する監視指導の実施状況	99	33.3
流通食品の検査結果	80	26.9
その他	7	2.4
特になし	6	2.0
不明	2	0.7
（全体）	297	100.0

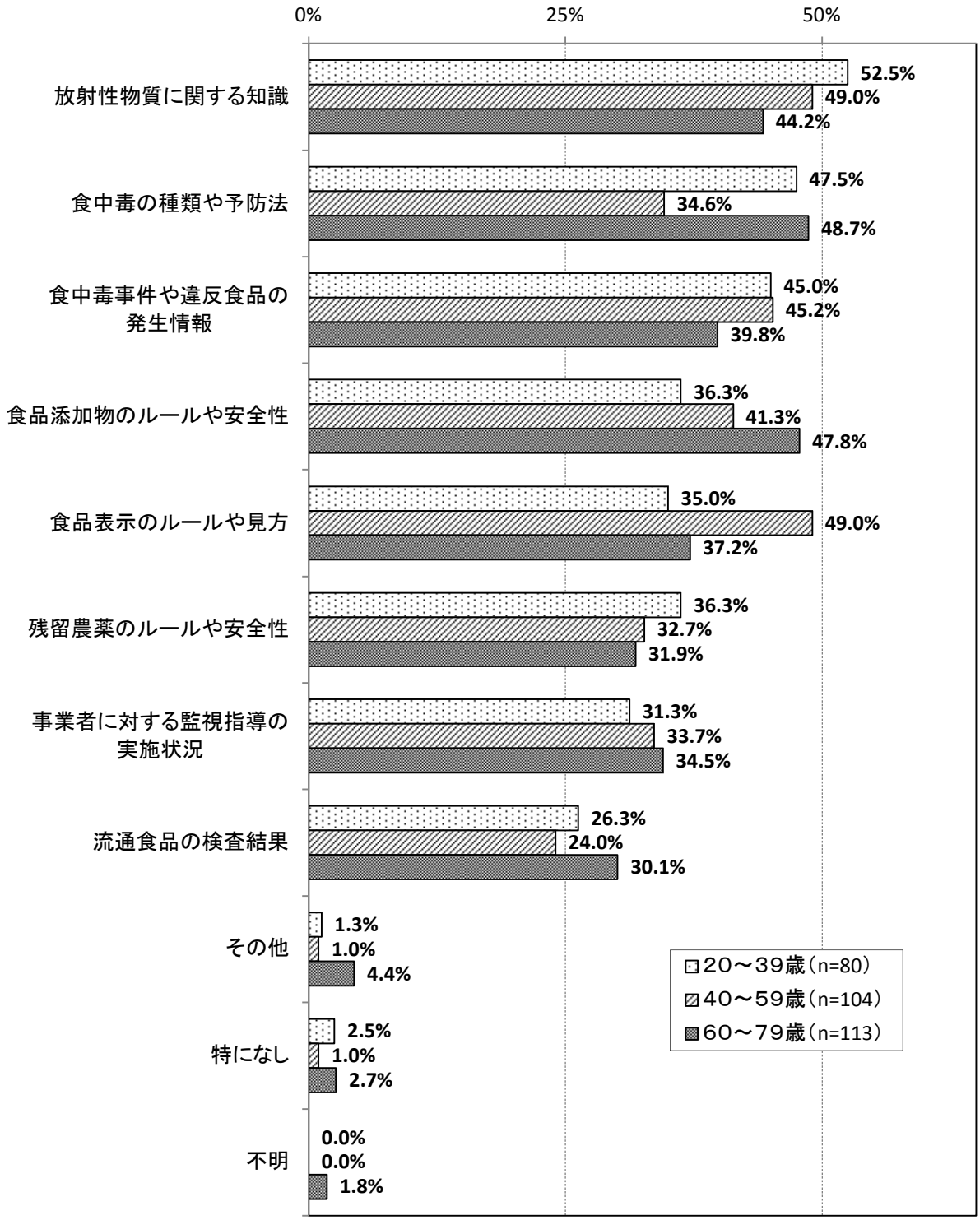


●その他●
・まずは内容よりも、いつ・どこで・どのように情報発信しているのかを発信してほしい。

●男女別

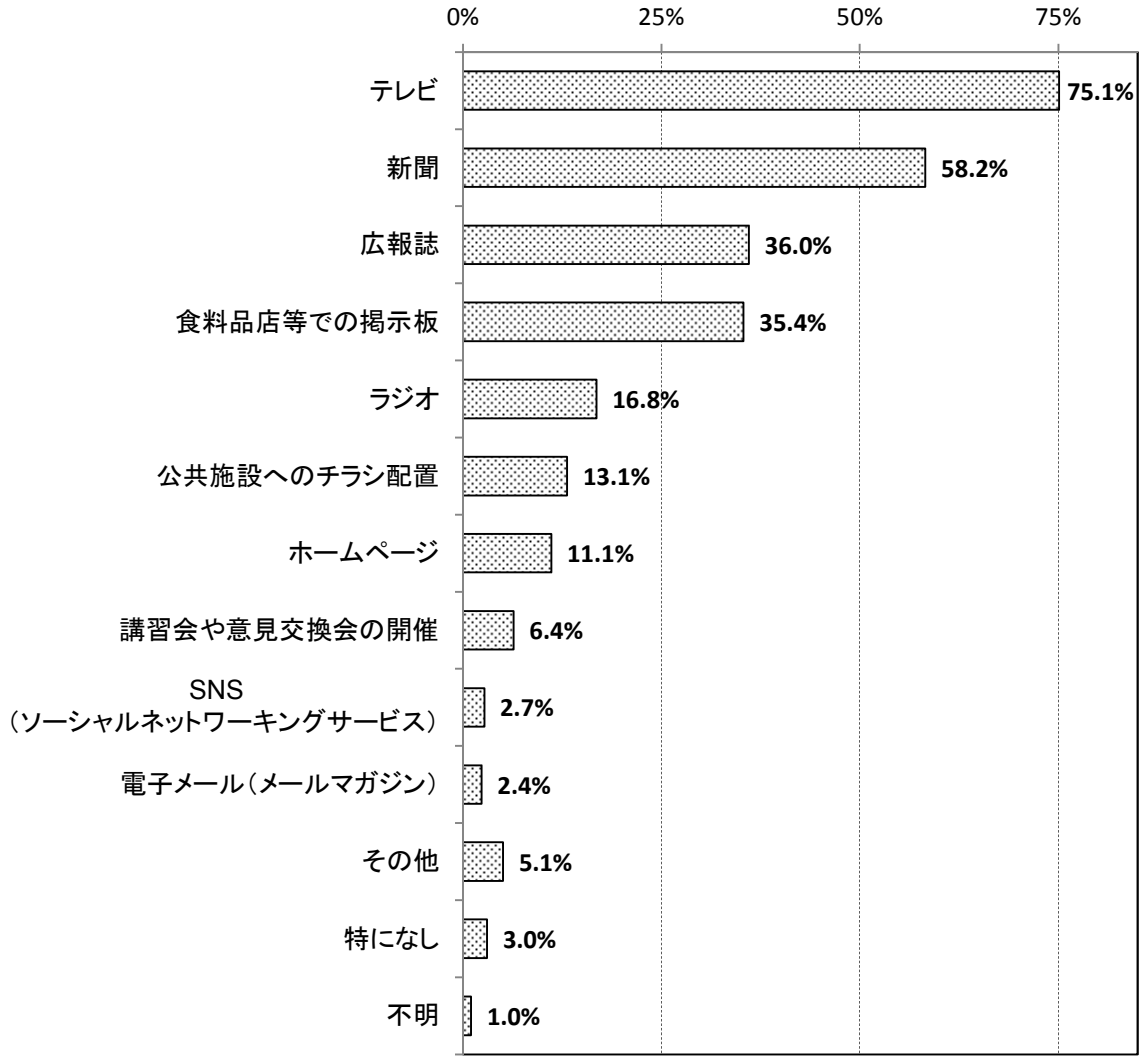

0%
25%
50%
放射性物質に関する知識
43.2%
53.0%
食中毒の種類や予防法
45.2%
41.7%
食中毒事件や違反食品の発生情報
39.7%
46.4%
食品添加物のルールや安全性
40.4%
44.4%
食品表示のルールや見方
43.8%
37.7%
残留農薬のルールや安全性
29.5%
37.1%
事業者に対する監視指導の実施状況
32.2%
34.4%
流通食品の検査結果
24.0%
29.8%
その他
2.1%
2.6%
特になし
2.1%
2.0%
不明
0.7%
0.7%
男性（n=146）
女性（n=151）

●年齢別


0%
25%
50%
放射性物質に関する知識
52.5%
49.0%
44.2%
食中毒の種類や予防法
47.5%
34.6%
48.7%
食中毒事件や違反食品の発生情報
45.0%
45.2%
39.8%
食品添加物のルールや安全性
36.3%
41.3%
47.8%
食品表示のルールや見方
35.0%
49.0%
37.2%
残留農薬のルールや安全性
36.3%
32.7%
31.9%
事業者に対する監視指導の実施状況
31.3%
33.7%
34.5%
流通食品の検査結果
26.3%
24.0%
30.1%
その他
1.3%
1.0%
4.4%
特になし
2.5%
1.0%
2.7%
不明
0.0%
0.0%
1.8%
20～39歳（n=80）
40～59歳（n=104）
60～79歳（n=113）

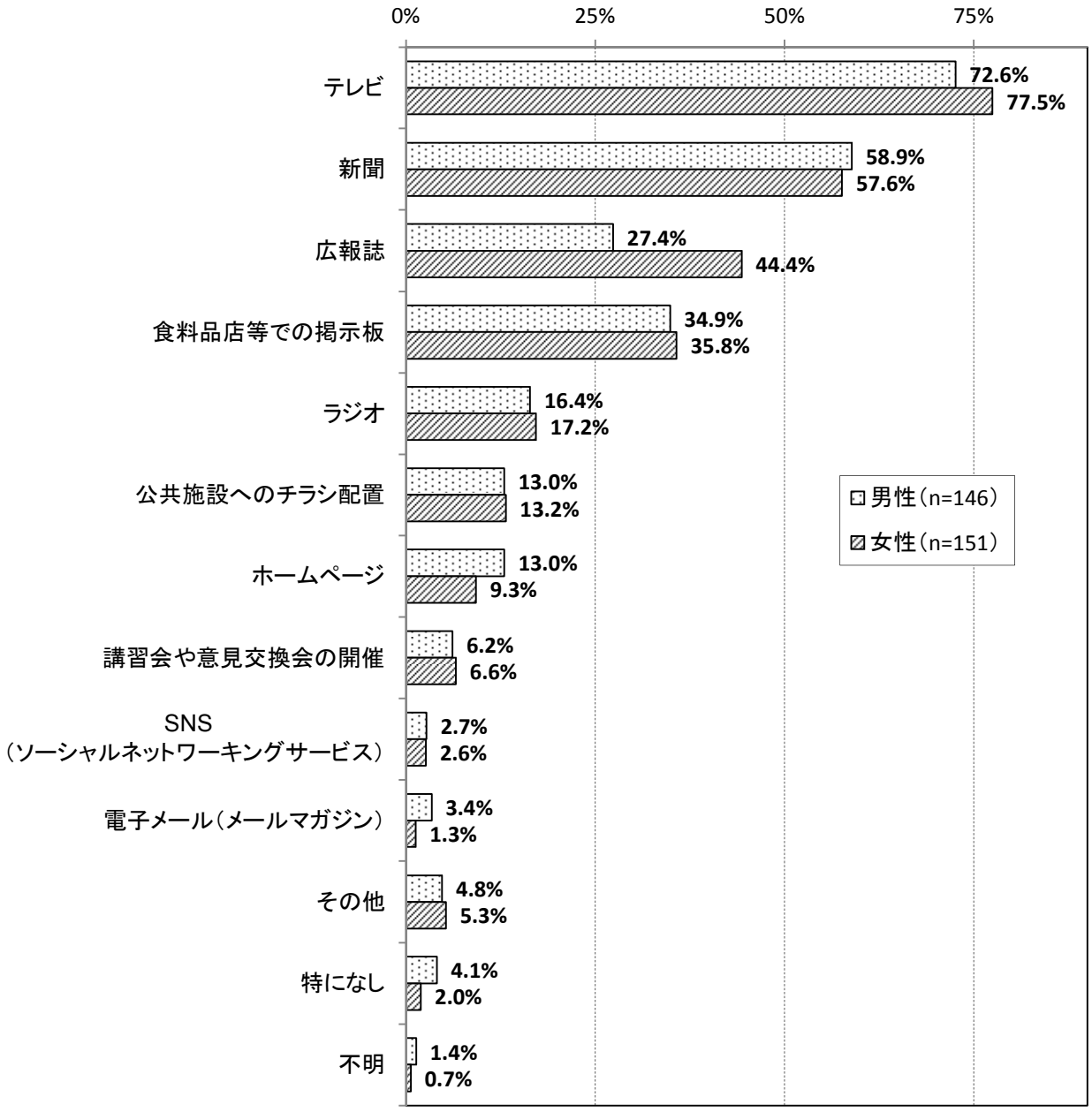
問８：　県が特に力を入れるべきだと思う広報手段はどれですか。
（当てはまるものすべて選択）

選択肢	回答数	%
テレビ	223	75.1
新聞	173	58.2
広報誌	107	36.0
食料品店等での掲示板	105	35.4
ラジオ	50	16.8
公共施設へのチラシ配置	39	13.1
ホームページ	33	11.1
講習会や意見交換会の開催	19	6.4
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）	8	2.7
電子メール（メールマガジン）	7	2.4
その他	15	5.1
特になし	9	3.0
不明	3	1.0
（全体）	297	100.0

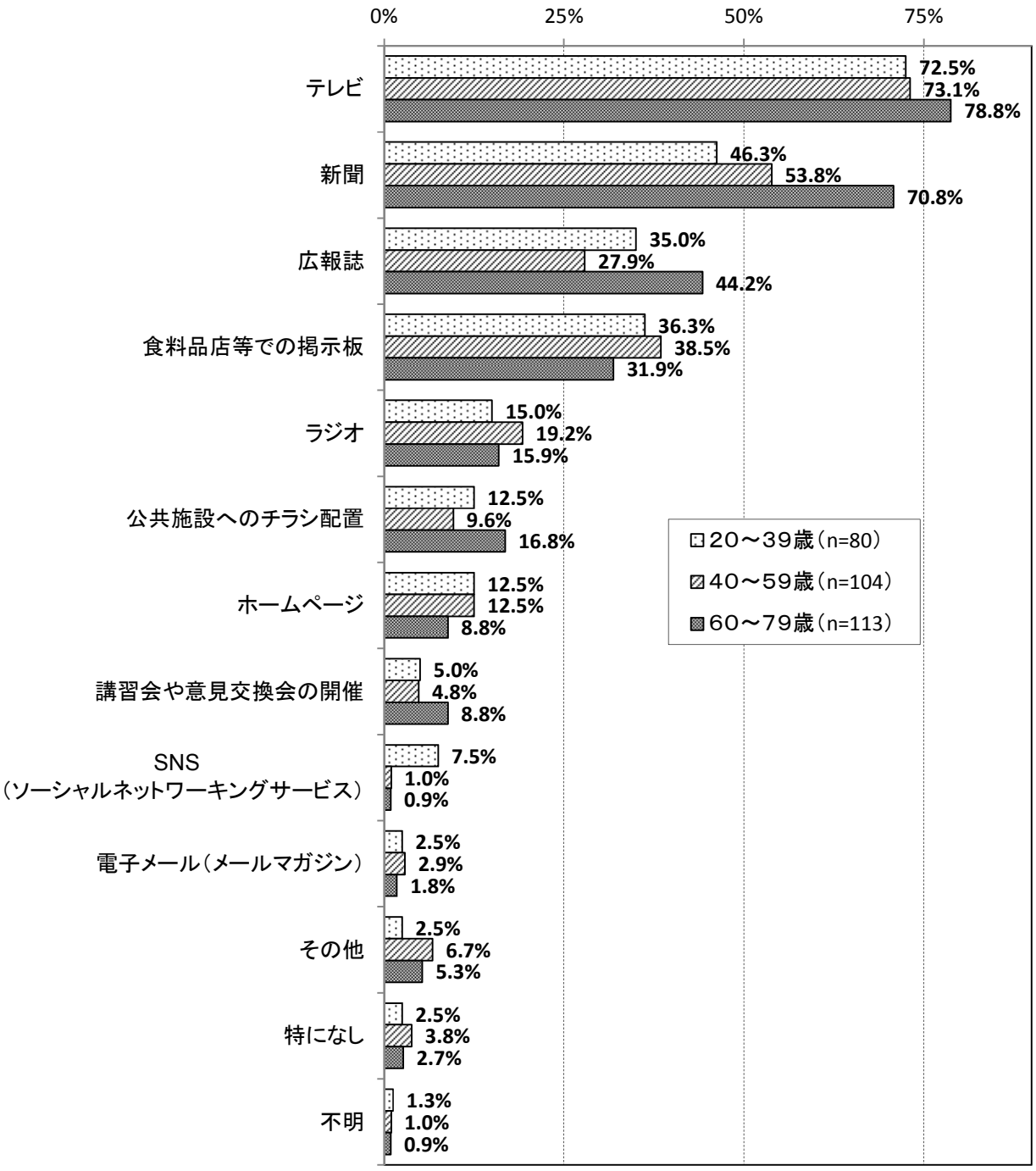


●その他●
・高齢者世帯ではパソコンがないこともあるため、できる限りテレビ･新聞等で詳しく情報を流してほしい。
・なるべく多くの社の新聞に掲載してほしい。
・市町村の広報誌であれば、毎月配布されて目に触れる時間が多いと思う。
・広報は目に触れなければ何の効果も得られないのだから、学校教育でもっと“食”について取り入れるべきだと思う。

●男女別



●年齢別


0%
25%
50%
75%
テレビ
72.5%
73.1%
78.8%
新聞
46.3%
53.8%
70.8%
広報誌
35.0%
27.9%
44.2%
食料品店等での掲示板
36.3%
38.5%
31.9%
ラジオ
15.0%
19.2%
15.9%
公共施設へのチラシ配置
12.5%
9.6%
16.8%
ホームページ
12.5%
12.5%
8.8%
講習会や意見交換会の開催
5.0%
4.8%
8.8%
SNS
（ソーシャルネットワーキングサービス）
7.5%
1.0%
0.9%
電子メール（メールマガジン）
2.5%
2.9%
1.8%
その他
2.5%
6.7%
5.3%
特になし
2.5%
3.8%
2.7%
不明
1.3%
1.0%
0.9%
20～39歳（n=80）
40～59歳（n=104）
60～79歳（n=113）

問９：　その他、食の安全・安心に関することで、ご意見やご感想などがございましたら、ご自由にお書きください。（抜粋、一部要約あり）

＜　男性　２０～３９歳　＞

● 民間の飲食店と共催した取組に力を入れてほしい。

● 取り組んでいる内容が十分に発信されていない。

● 食品添加物などは毎日摂取するものであり、製造業者への監督をしっかりと行ってほしい。また、どのようなことを行ったかを県民に周知してほしい。

● 消費期限については改ざんなどないようにしてほしい。

● 食品に付着する放射性物質がとても心配だ。

● 放射性物質の無料検査はぜひ長期継続してもらいたい。セシウムの半減期が来るまでは必要だと思います。

● 食と放射線に関して過剰な規制、制度を実施することは、後に様々な影響があると考える。給食や食品への放射線の検査をすること、その報道が県民の放射線に関する不安をあおり、その程度に関係なく不安と感じるようになってしまう。その影響が、農家や販売業者に及ぶことを懸念している。

● やはり地元でとれたものを食べるのが一番安全だと思う。いわゆる地産地消を推進すれば、消費者は安全なものを食べられるし、生産者も潤うのではないか。

● 極端な話、県内に流通している食品が安全であると安心して食べられれば何産でもよい。

● 原料が中国産なら大きく表示すべき。

● 海外から入ってくる食品の安全性について心配している。

● 安全・安心は良いことと思うが、やっぱりおいしいのが一番のような気がする。

＜　男性　４０～５９歳　＞

● 食の安全に対する県の取組は十分行われていると思うが、それを告知する方法にもうひと工夫してもらいたい。パソコンを使えない人、パソコンを持っていない人のためにも、テレビや新聞を上手く活用してもらいたい。できるなら、夕方のNHK、民放のニュースの中で知らせてもらえれば、広告費は高いと思うが、かなり効果はあると思う。

● 食の消費期限などによるコンビニ弁当などの廃棄量が大量なのが気になる。少し期限が厳しすぎるのではないか。

● 放射性物質に関する情報が少ないと思う。魚などは特に心配だ。また、食中毒（ノロウイルス）に関する情報発信が遅すぎる。

● 放射性物質のことで、多くの人が不安に思っているようだ。私自身は大して気にしていないが、県として今まで以上に放射性物質についての情報を県民に伝えてほしい。

● 新潟県産農産物のブランド力を高めるべき。

● 中国からの食品輸入はやめてほしい。リスクが大きいと思う。原材料、製造方法等信頼できない。入れるのであれば、検査を厳重にやってほしい。

● 真に安心安全な食品を求められるようなシステムを構築してもらいたい。儲けのために何をされているか分からない実態があると思われる。特に地産地消の観点から、新潟県はどこにも自慢できる食の産地としての位置付けになるようにしてもらいたい。

● 国際化が進む世界経済の流れの中で、相互互恵の観点から輸入食物の増加は避けられないと思うが、米等の基幹作物の国内生産は維持できるような施策を希望する。加えて、食の安全のために輸入食物に対しては厳格な検査基準と機関の維持もお願いしたい。

● 力を入れるべきは広報ではなく、業者に対する衛生指導である。

＜ 男性 ６０～７９歳 ＞

● 食の安全は、人命に関わる。タイミング良く、発生→対策→終決を的確に情報提供し、県民に安心を与えるよう努力してほしい。くれぐれも過度な不安を与えることのないように･･･。また風評により不利益を受ける人が極力少なくなるよう注意してほしい。

● 年齢を重ねると外国語等よく分からない。日本語で分かりやすくしてほしい。

● 加工食品、生鮮品（特に肉類など）の死に至る食中毒事件などあるので、そういった際に特に緊急注意が必要である。県が率先して調査・防止に対応することが望まれるので、広報等を含めて取り組んでもらいたい。

● 食の安全・安心に取り組む内容は充実しているが、輸入食品の検査情報はホームページ以外でも広報してもらいたい。

● アレルギー体質（小麦、乳製品、ピーナツなど）をもって生まれてきた子どものための食品をもっと販売してもらいたい。安心して買えるコーナーがあるといいと思う。

● 今後、輸入食品等の割合が増えることが予想されるので、原産地の表示などは確実にしてほしい。また、自給率を高めていく方策を積極的にしてほしい。

● 賞味期限が過ぎた食品は、1日過ぎたものでも悪くなっていると勘違いしている人が身の回りに何人かいる。食品にもよるが、期限後1週間は大丈夫などの目安があると、食品が無駄にならないと思う。

● スーパーで販売されている野菜等は絶対に安心なものとして買っている。最近は特に放射性物質が気になる。長野、福島、宮城産が特に心配だ。店頭に並べてあるものは絶対に安心して食べられるものと考えているので、食品の検査は十分にしてもらい、食の安全に取り組んでほしい。

● 食品の検査は、日々行っているのだろうが、どうしても放射性物質の検査が気になるところだ。地産地消直売所設置にもっと支援をしてほしい。

● 今は中国産が多くて、これもダメ、あれもダメと選んでいると、買う物がなくなるほど多い。だからといって国産ばかり買えば値段が高くなってしまう。国産ももう少し買いやすくなったらいいと思う。

● 野菜などは自分で作ったものや地場産のものなどが好きだが、外食はもう外国のものだろうと思って食べている。アレルギーなどがないので何でも食べているが、小さい孫などが来たときなどは安心なものを心がけている。

● 加工食品などはほとんど買わずに、野菜、魚、肉などの現物を買って料理しているので、現物そのものの良し悪しを常に考えている。問 1-2 にある「不安を感じている」については、どれも目に見えず、味に関係なく、生産者、加工業者、または結果としてそうなったものもあるから、不安はあるがどうしようもないと思っている。本来、口に入れる食物は「地産地消」であるべきではないか。

● 今までの行政は生産者保護の色が濃く、消費者保護施策が見えなかった。最近になって消費者保護に少しずつ近づいているように感じている。今後に期待している。

● 今の消費者は、食品添加物を加えてまでも見た目や食味にこだわっていないと思う。健康志向の現在、企業側はもっとこの消費者の意向を知るべきではないか。また、行政側から知らせるべきではないかと思う。一過性ではなく、食べ続けるもの（豆腐、納豆、漬物、飲料等）については、少々値が高くても、生産国、食品添加物、遺伝子組換えの有無を見て、安心できるものを購入しているのではないか。

● 自給自足（野菜等）をしているため、食品についてはあまり不安ではない。

● 食品事業者に対する常日頃の監視、指導、講習会を充実してほしいと思う。

● 一般的に男性の関心が薄い。もっと勉強をしなければならないと思う。

● 自分に合うものなら食べるが、自分に合わないものは食べない。

＜ 女性 ２０～３９歳 ＞

● 県も情報発信に取り組んでいると思うが、情報を受け取る側が自分に関心のあるものしか見ようとしていないのかもしれない。私はあまりメールやホームページは見ないが、テレビや新聞の CM 等で印象に残るような情報があれば、ホームページを見たり問い合わせしてみようかなという気持ちになるような気がする。

● 様々な情報が氾濫しているので、正しい知識・情報を提供してもらいたい。今では流通食品が多く出ているので、検査などもされていると思うが、消費者がより安全・安心で食品を選択していければ、健康面も含めてより良い食生活になると思う。

● もっとテレビで食の安全性などをやってほしい。

● ホームページに力を入れても高齢者は分からない。テレビや新聞で情報提供するべき。

● 産地や放射線量とかを偽装しないでほしい。

● 放射性物質に関してすごく不安に感じている。ずっと買い控えていた干ししいたけを久々に購入したら、スーパーの干ししいたけで放射性物質が検出され、肝を冷やした。新潟県産のものなら安全なのかなと思って県産のものを選ぶようにしているが、とても不安に思いながら購入している。全部検査されていて、検出されないことが分かればいいが・・・。

● 魚の放射能残留について、とても不安に思っている。野菜などはきちんと測定しているといっても、不安なので買わない（不安な地域産）人も多いと思う。魚についても安全なら安全とアピールしてほしい。

● 放射性物質について、子どもたちが安全に食べられるものかどうか、常に確認している。これからも検査を続けていってほしい。

● 今後もスーパー等販売の中で放射性物質に関するものがあったときは、広報してほしい。

● 特に放射性物質に関しては、「検出されない」という結果が出ても、大丈夫そうな地域のものだけ選んで検査しているのでは、など検査自体に不信感がある。

● 今一番の不安は放射能だ。新聞を見ていると、”今日は放射能は検出されていません”など出ていますが、日によって食品（野菜など）から出ていたりするので、いまだに不安を感じている。

● 毎日必ず口にする食品は安全・安心であってほしい。特に新潟県はお米の名産地でもあるので、他県の人や海外の人にも自信を持ってすすめられるよう、これからも取り組んでほしい。

● 輸入食品は、口に入れるには少し抵抗がある。残留農薬があるのではないかと思うと、子どもにはあまり食べさせられないように感じる。

● 新潟の食材はすべて安全・安心だと思って食べたり、県外の人たちにもいろいろ食べてもらったりしている。生産者の方たちのためにも、これからも正しい基準を通ったおいしい食材を流通させてほしい。

＜　女性　４０～５９歳　＞

● 売られている食品を安心して口にできるようにもっと多くの食品検査をやってほしい。その他の取組も強化していってほしい。今までこのような情報に触れる機会が少なかったように思う。もっと身近なスーパー等にチラシや広報誌など置いてくれたら見る機会も増えるような気がする。

● 新聞への掲載は、大きく一面を割くぐらいにイラストや写真を使って分かりやすく説明してほしい。子どもが見ても楽しんで理解できるような紙面にしてほしい。

● 子どもや学生などの若いうちから関心を持ってもらえるよう情報を発信してほしい。

● 特に県が発信しているかどうか関心をもって見ていなかった。

● 食の安全は気になっても、毎日仕事と家事に追われている主婦が特に目にするのは、新聞の折り込みチラシとスーパーマーケットの売り場の掲示物くらい。それを利用して食の安全・安心を伝えてみるのはどうか。

● ”情報が正しく広報されている”と信じられる「信頼感」が持てるようにしてほしい。（これ本当？と思うことが多くある。）

● スーパー、公共施設などでの情報の掲示は分かりやすく目につきやすい方法が良いと思う。消費者が手に取る物はすべて安全だと確信できる監視指導とその表示をしてほしい。

● 新潟県農林水産部 食品・流通課が出している「にいがたの農産物直売所 MAP」は食の安全・安心面から非常に利用しやすく役に立っています。

● 買い物をする時、価格を気にしますが、その反面、安すぎると添加物や産地、そして表示のウソなのではないかと思ってしまうことが多い。何でも商品を消費者に出す側のモラルにゆだねられていて、(そのような気がして)不安がある。

● 調理済みの食材(魚の味付済み等)の原産地表示がないことがあるので、ぜひ表示してほしい。

● 食品の放射線量に関して取りあげられることが多いが、震災前の数値が分からないと現状が高いのかどうか分からないと思う。今の情報も大事だが、震災前と比べてこれだけ高いと言われたほうが分かりやすいと思うし、単に今の数値だけでは高いのか低いのかよくわらない。

● 今は特に放射性物質に対する関心が高く、申し訳ないと思いますが、福島産、茨城産、千葉産、埼玉産の商品は、安全と明記していない物は買わないようにしている。特に気にしている訳でもないのに手が出ない。県外から入っているものがすべて検査されている訳ではないと思うので、「ここにあるものは全部検査しましたよ」ということを明確にその場に明記されていれば、信用して買いたくなるかもしれない。

● 産地から直接、安く買えるシステムをつくってほしい。流通にお金がかかりすぎだと思う。特に捨ててしまうダンボールや発泡スチロールに入れて出荷するのはムダだと思う。私は実家の野菜を主に食べており、安全性を心配したことはない。

● 輸入のものはあまり買う気になれない。検査済みと分かっていても不安がある。味も落ちるのが多いような気がする。

● 「食」は生きることの基本だと思う。それは安全と安心が根底にあるからです。これからも当たり前の安全がずっと続いてほしい。

● 保育園、学校、スーパーなど集団給食や多くの食料品を扱う施設へ指導をしてほしい。

● 「健康的で安全な食生活を送りたい」というのは子どもや家族を持つ人なら誰でも同じだと思う。これからも未来ある子どもたちに、もっと広い分野の食育を実施してほしい。

● スーパーなどで売られているものは安全だと思って買っているが、異物混入などで回収などよく耳にするようになり、店に出る前の安全性をちゃんとしてほしいと思う。

● 店内で出回っている品、すべてのものが安全・安心だと思い購入しているので、消費者を裏切らないためにも検査や指導はしっかりとやってほしい。

＜ 女性 ６０～７９歳 ＞

● まずは多くの県民が食自体に関心を持つような取組をするべきだと思う。

● 県からの情報を一方的に受けるだけではなく、個人としても情報を求めようとする姿勢が大切だと思う。

● 食中毒や違反食品などがテレビや新聞に出たときには注意するが、そうでない時は何も気にせず食べている。

● 食品を買うときは成分表を見るが、その時いつも「賞味期限も近くに記入されていれば」と思う。

● 買い物をする時、商品の原産地は必ず確認するが、食品表示のルールが分かりにくい。統一された記入方法になっていると思うが、分かりやすく知る方法があるとよい。

● 農薬や食品添加物にはとても関心があるが、表示の字が小さいのでもっと大きく書いてほしい。

● 放射性物質が将来の子どもたちに与える影響がとても心配だ。

● スーパーの一角に JA の野菜売場があるところでは、地元農家のものを買うようにしている。

● 食品は直接口にするので、県外産より県内産に重点を置いて食品を販売してほしい。

● 以前は何事もなく手に取り口に入れていたが、どこ産、どこの国と見るようになった。これは大丈夫かと考え、価格を見てまあいいか、生産者も大変なのだと考えて購入している。

● なるべく新潟県産の食品を買うようにしている。

● 国内産、県内産、地場産大好きで買っている。輸入物に関して添加物（その品物に対してどのような働きをしているか等）や産地等に不安がある。

● 食の安全、地産地消が叫ばれて久しいが、何か言葉だけが一人歩きしているように思う。消費者ももっと勉強をし、地場産の購入など力を入れたら良いと思うが、価格や見た目で選んでしまうようだ。業者の取締りはもちろんであるが、行政任せではなく、消費者も賢くならなければならないと思う。

● 毎日安心しておいしく食べているので、今のところ不安なことはない。

● いろいろ食品検査をしたうえでの食品だと思って安心して買っている。

● 果汁１%というような飲料は、幼児が喜んで飲むが、砂糖水に色がついたようなもので、いい気がしない。中身に果汁を多くして、色は濃くしないでほしい。

● 食品事業者に対して、小規模施設でも衛生指導や表示の指導を徹底してほしい。

● スナック菓子を食事の代わりにしている人がいるが、子どもにとって大丈夫なのかと不安になる。

● 農家ではないが、夏野菜は農薬なしで作っている。子どもがいたときはアレルギーに注意していたが、今は夫婦２人なので価格で食品を選んでいる。

Ⅲ　付録

１．単純集計表

性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不明)%
1	男性	146	49.2	49.2
2	女性	151	50.8	50.8
	不明	0	0.0	−
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	297

年代別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不明)%
1	20～39歳	80	26.9	26.9
2	40～59歳	104	35.0	35.0
3	60～79歳	113	38.0	38.0
	不明	0	0.0	−
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	297

地区別(大圏域)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不明)%
1	下越	26	8.8	8.8
2	新潟	117	39.4	39.4
3	中越	86	29.0	29.0
4	魚沼	27	9.1	9.1
5	上越	34	11.4	11.4
6	佐渡	7	2.4	2.4
	不明	0	0.0	−
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	297

問1　　食品の安全性について不安を感じていますか。(1つだけ選択)

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	感じている	204	68.7	69.4
2	感じていない	76	25.6	25.9
3	わからない	14	4.7	4.8
	不明	3	1.0	−
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	294

〈問1で「不安を感じている」と答えた方にお聞きします〉

問1－2　具体的にどのようなことに不安を感じていますか。（当てはまるもの全て選択）

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	食品添加物の使用	131	64.2	64.5
2	農薬の残留	103	50.5	50.7
3	放射性物質による汚染	130	63.7	64.0
4	水銀やカドミウムなど重金属による汚染	35	17.2	17.2
5	細菌やウイルスによる食中毒	73	35.8	36.0
6	毒きのこや有毒植物による食中毒	19	9.3	9.4
7	食品への異物混入	49	24.0	24.1
8	食物アレルギー	23	11.3	11.3
9	食品の表示や宣伝の信ぴょう性	96	47.1	47.3
10	遺伝子組換え食品の使用	55	27.0	27.1
11	輸入食品の安全性	139	68.1	68.5
12	BSE(牛海綿状脳症)	37	18.1	18.2
13	その他	8	3.9	3.9
	不明	1	0.5	－
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	204	100.0	203

〈以降、全ての方ににお聞きします〉

問2　食品を購入する際、どの表示事項を重視していますか。（当てはまるもの全て選択）

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	価格	218	73.4	73.4
2	生産者・製造者	121	40.7	40.7
3	原産地	230	77.4	77.4
4	原材料	99	33.3	33.3
5	食品添加物	120	40.4	40.4
6	期限表示	206	69.4	69.4
7	アレルギー表示	20	6.7	6.7
8	カロリーなどの栄養表示	54	18.2	18.2
9	遺伝子組換え	65	21.9	21.9
10	その他	8	2.7	2.7
11	特になし	4	1.3	1.3
	不明	0	0.0	－
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	297

問３　県では、「にいがた食の安全・安心条例」を制定し、下図に示したような取組を重点的に行っているところです。
これらの取組を含めて、新潟県における食の安全・安心の取組についてどのように感じていますか。（１つだけ選択）

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	十分に行われていると感じている	26	8.8	8.9
2	ほぼ十分に行われていると感じている	135	45.5	46.1
3	どちらとも言えない	103	34.7	35.2
4	やや不十分だと感じている	20	6.7	6.8
5	不十分だと感じている	9	3.0	3.1
	不明	4	1.3	－
	サンプル数(%ﾍﾞｰｽ)	297	100.0	293

問4　問３の回答の理由を具体的にお書きください。（記述回答）

（本編に掲載しているため、ここでは割愛します）

問5　　県では主に次の方法により食の安全に関する情報を発信しています。以下のうち、見たことや参加したことがあるものはどれですか。
（当てはまるもの全て選択）

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	21	7.1	7.2
2	食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」	55	18.5	18.9
3	メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	4	1.3	1.4
4	新潟日報「県からのお知らせ」欄への食中毒情報やイベント情報などの掲載	120	40.4	41.2
5	新潟県が作成した食中毒予防などに関するチラシ類（ノロウイルス、腸管出血性大腸菌、毒きのこ、有毒植物など）	60	20.2	20.6
6	県庁や保健所が開催する意見交換会や講習会への参加	8	2.7	2.7
7	その他	13	4.4	4.5
8	見たことも参加したこともない	119	40.1	40.9
	不明	6	2.0	－
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ）	297	100.0	291

問6　　県から食の安全・安心についての情報が県民に向けて十分に提供されていると感じますか。

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	提供されている	16	5.4	5.5
2	ほぼ提供されている	63	21.2	21.7
3	どちらとも言えない	124	41.8	42.8
4	やや不足している	55	18.5	19.0
5	不足している	32	10.8	11.0
	不明	7	2.4	－
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ）	297	100.0	290

問7　　食の安全に関する情報で、県から特に情報発信してほしい内容はどれですか。
（当てはまるもの全て選択）

No.	選択肢	件数	(全体)%	(除不明)%
1	食中毒の種類や予防法	129	43.4	43.7
2	食品表示のルールや見方	121	40.7	41.0
3	残留農薬のルールや安全性	99	33.3	33.6
4	食品添加物のルールや安全性	126	42.4	42.7
5	放射性物質に関する知識	143	48.1	48.5
6	事業者に対する監視指導の実施状況	99	33.3	33.6
7	流通食品の検査結果	80	26.9	27.1
8	食中毒事件や違反食品の発生情報	128	43.1	43.4
9	その他	7	2.4	2.4
10	特になし	6	2.0	2.0
	不明	2	0.7	－
	サンプル数（%ﾍﾞｰｽ）	297	100.0	295

問8　県が特に力を入れるべきだと思う広報手段はどれですか。（当てはまるもの全て選択）

No.	選択肢	件数	（全体）%	（除不明）%
1	テレビ	223	75.1	75.9
2	ラジオ	50	16.8	17.0
3	新聞	173	58.2	58.8
4	広報誌	107	36.0	36.4
5	ホームページ	33	11.1	11.2
6	電子メール（メールマガジン）	7	2.4	2.4
7	食料品店等での掲示板	105	35.4	35.7
8	講習会や意見交換会の開催	19	6.4	6.5
9	公共施設へのチラシ配置	39	13.1	13.3
10	SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）	8	2.7	2.7
11	その他	15	5.1	5.1
12	特になし	9	3.0	3.1
	不明	3	1.0	－
	サンプル数（%ベース）	297	100.0	294

問9　その他、食の安全・安心に関することで、ご意見やご感想などがございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（本編に掲載しているため、ここでは割愛します）

（余白）

新潟県